

第三 輸出入税及租税ニ關スル委員
 第四 貿易及交際ニ關スル委員
 第五 鐵道郵便電信ニ關スル委員
 第六 司法ニ關スル委員
 第七 國計ニ關スル委員
 右ノ各委員ニ於テハ會長ノ外少ナクハ聯邦四ヶ國ノ代
 議士ヲ用ユルヲ要ス而シテ該委員ヲ用ユル所ノ各國ハ
 只一ノ投言ヲ有シ陸軍及城堡ニ關スル委員ニ於テハ「バ
 ビエール」ハ常ニ一員ノ席ヲ保ツ可シ自餘ノ議員ハ皇帝
 之ヲ任命シ海軍ニ關スル委員トナル可キ議員モ亦皇帝

之ヲ任命シ其他總テ委員トナル可キ議員ハ上院ニ於テ
 之ヲ撰擧ス右一切ノ委員ノ編制ハ上院ノ各集會ニ於テ
 毎歲之ヲ更改ス可シ而シテ其罷メラレタル委員ハ更ニ
 撰擧セラル、イテ得可シ」
 右ノ外上院ニ於テ「バビエール」サクス「ウイルトンベルグ」
 ノ三ヶ國ヨリ一員宛ノ代議士ト上院ニテ他ノ聯邦各國
 ヨリ毎歲撰擧ス可キ二名ノ代議士トニテ外務ニ關スル
 委員ヲ編制ス可シ該委員ニ付テハ「バビエール」常ニ會長
 ノ位ヲ有ス○右ノ總テノ委員ノ職務ニ關スル必要ノ官
 吏ヲ設置ス可シ

第九條 上院ノ各議員ハ下院ニ參入スルノ權ヲ有ス而シテ其ノ求ニ依リ己ノ政府ノ意見ヲ表セントスル時ハ下院ハ必ス其意見ヲ聽ク可シ此場合ニ於テハ上院ノ過半数未其意見ヲ承諾セサル時モ亦同一ナル者トス凡ソ議員ハ同時ニ上院下院ノ議員ヲ兼ヌルヲ得ス

第十條 上院ノ議員ニ普通ノリフロマテックフプロテックシエンヌ交際保護ヲ授クルヲハ皇帝ノ義務ナリ交際保護トハ議員タル者其本國ヨリ首府ニ往キ或ハ首府ヨリ其本國ニ歸ル途中ニ於テ自由ノ往來ヲ爲スベキヲ謂フ

第四篇 「ブレシゲユム」ノ事

第十一條 聯邦ノ「ブレシゲユム」謂フ盟主ヲノ權ハ獨逸皇帝ノ

獨

名義ヲ以テ普魯西王ニ在リトス國際法ニ關スル事ニ付テハ皇帝帝國ノ總代トナリ帝國ノ名義ヲ以テ戰ヲ宣ヘ和ヲ決シ外國ト同盟シ及其他ノ條約ヲ結ビ國使ヲ派出シ及外國ノ使節ヲ受ク○帝國ノ名義ヲ以テ戰ヲ宣ルニ於テハ外國ヨリ聯邦ノ領地及其海岸ヲ侵襲スル時機ノ外上院ノ承認ヲ得ルヲ緊要トス外國ノ條約ハ此國憲ノ第四條ニ掲載シタル帝國立法ニ關スル事件ニ適合シタルニ於テハ其條約ヲ結フ爲ニ上院ノ承認ヲ得ルヲ緊要トス又其條約ノ効ヲ有スル爲ニ下院ノ承認ヲ得ルヲ緊要トス

第十二條 皇帝ハ上院及下院ヲ徵集シ或ハ之ヲ開キ之ヲ延ハシ及之ヲ閉ツルノ權ヲ有ス

第十三條 上院及下院ノ徵集ハ每歲必ス之ヲナス可シ然レモ下院ヲ徵集セスシテ種々ノ事務ヲ預メ準備スル爲メニ上院ヲ徵集スルヲ得可シト雖モ上院ヲ徵集セスシテ下院ヲ徵集スルヲ得ス

第十四條 上院議員ノ槩略三分一集會ヲ請求スルニ於テハ必ス上院ヲ徵集ス可シ

第十五條 上院ニ於テ議長ノ職務及其事務ヲ管理スルヲハ皇帝ヨリ命セラル可キ「ライクスカンツレル」大宰相ニ

在リトス○「ライクスカンツレル」ハ委任狀ヲ以テ上院ノ他ノ議員ヲ代理ト爲スヲ得可シ

第十六條 緊要ナル議案ハ上院ノ決定ニ由テ皇帝ノ名義ヲ以テ下院ニ下付ス而シテ下院ニ於テハ上院ノ議員或ハ上院ヨリ特任シタル委員ハ其議案ノ取扱ヒヲナスヲ得可シ

第十七條 帝國ノ法律ヲ分付シ及之ヲ布告シ又ハ其法律ノ施行ヲ監督スルノ權ハ皇帝ニ在リトス凡テ皇帝ノ命令及規則ハ帝國ノ名義ヲ以テ布告ス而シテ其効力ヲ有スル爲ニ「ライクスカンツレル」ノ花押ヲ必要トス之カ爲

ニ「ライクスカンツレル責」任ス

第十八條 皇帝ハ帝國ノ官吏ヲ命シ及帝國ノ爲ニ官吏誓詞ヲ宣ヘシメ緊要ナル時機ニ於テハ之ヲ免黜スルノ權アリ○聯邦各國ノ官吏帝國ノ官吏ニ命セラレタル時帝國法律ニ於テ右ノ事件ニ付格別ナル規定アルニ非サレハ帝國ニ於テモ其本國ニテ受ケタル官職ヨリ生スル一切ノ權利ヲ保持ス

第十九條 聯邦各國ノ此國憲ニ據テ聯邦ニ關スル一切ノ義務ノ何レヲモ盡サ、ル時ハ右等ノ國ハ「エクセクシヨ」兵力ヲ以テ強ノ方法ヲ以テ之ヲ強ヒラル、ヲ得可
「ユルヲ謂フ」

シ此ノ「エクセクシヨ」ハ上院ニ於テ決定シ皇帝之ヲ執行ス

第五篇 下院ノ事

ライクスタグ

第二十條 下院ハ秘密ノ投票ニ由リ全國ノ直接ナル撰擧ヲ以テ編制ス○一千八百六十九年五月三十一日ノ撰擧法ノ第五條ニ掲載シタル改正ヲ實施セラレサル間ハ「バビエール」ハ四十八名「ウイルトンベルグ」ハ十七名「バーデン」ハ十四名「マイヌ」河南ニ在ル「ヘツセン」ハ六名ノ代議士ヲ派出ス故ニ下院議員ノ全員ハ三百八十二名トス
第一條ノ原註ニ記シタル「アルサス」「ロレーヌ」ノ二州ヨリ十五名ノ議員ヲ派出スルカ故ニ現今議員ノ全員ハ三百九十七名

トス但北獨逸聯邦ヨリ出ス
所ノ二百九十七名ヲ合算ス

第二十一條 官吏ハ下院ニ參入スル爲ニ認准ヲ得ルニ及
 ハス○下院ノ議員ハ俸給アル職務ヲ帝國或ハ聯邦各國
 ヨリ命セラレ或ハ帝國及聯邦各國ニ於テ前官ヨリ貴キ
 官位或ハ多キ俸給アル職務ヲ命セラレタルキハ該議員
 ハ下院ニ於テ其職務及投言ノ權ヲ失フ而シテ新ナル撰
 舉ニ由テ下院ニ於テ更ニ其職務ヲ復スルヲ得可シ

第二十二條 下院ニ於テ一切ノ取扱フ可キ事ハ公行トス
 下院ノ集會ニ於テ種々ノ事務ニ關スル真正ノ記事ニ付
 其責ニ任セス

第二十三條 下院ハ帝國ニ關係ス可キ事件ニ付キ新法ヲ
 起艸スルノ權ヲ有ス又ハ下院ニ指出サレタル願書ヲ上
 院ノ「ライクスカンツル」ニ送呈スルノ權ヲ有ス

第二十四條 下院ノ立法時間レキストラックル議員ノ任ハ三年トス○此三
 年ノ時間中下院ヲ解散スル爲ニハ上院ノ決定及皇帝ノ
 許可ヲ必要トス

第二十五條 下院ヲ解散シタル場合ニ於テハ解散シタル
 日ヨリ六十日ノ間ニ撰舉人ヲ徵集シ九十日ノ間ニ更ニ
 復タ下院ヲ徵集ス可シ

第二十六條 下院ノ承認ヲ得スシテ下院ノ延會ヲナスノ

時間ハ三十日ニ過ク可カラス且ツ下院ノ延會ハ一周會
間ニ於テ再ヒスルヲ得ス

第二十七條 下院ハ議員タル者ノ權利アルヤ否ヲ審糾シ
而シテ之カ決定ヲナス下院ハ一ノ規則「ゲシユフツ」云フ
ニ由テ事務ノ規程及取締ノ事ヲ決定シ議長一名副議長
數名及書記官數名ヲ撰擧ス

第二十八條 下院ハ全員ノ過半数ヲ以テ事ノ決定ヲナス
下院ノ決定ノ効ヲ有スル爲ニ此建國法ニ定メタル全員
ノ過半数ノ出頭ヲ必要トス下院ニ於テ此國憲ニ據テ帝
國ニ干涉セサル事件ヲ決定スル時ハ該事件ニ關係シタ

ル聯邦各國ヨリ派出シタル議員ノミ其投言ヲナス可シ
第二十九條 下院ノ議員ハ全國民ノ總代タリ或ル囑託及
命令ヲ以テ之ヲ強ヒラル、ヲ得ス

第三十條 下院ノ何レノ議員ニテモ其投言職務及說話ノ
爲ニ裁判所ニ告訴セラル可カラス或ハ何レノ仕方ニテ
モ集會ノ外責任アルヲナシ

第三十一條 現行罪犯ニ非ス又ハ二十四時間ニ拿捕スル
ニ非サレハ下院ノ承認ヲ得スシテ下院ノ議員ハ集會ノ
時間罰ス可キ事犯ノ爲ニ裁判所ニ提喚セラレ及拿捕セ
ラル、ヲ得ス○要償ノ爲ニ議員ヲ拿捕スルニ於テモ

之ト同一ノ承認ヲ必要トス○下院ノ議員ニ對スル治罪
 及審判ニ付テノ禁錮及民事ニ付テノ禁錮ハ下院ノ求メ
 ニ因テ其集會ノ時間之ヲ停止スルヲ得ヘシ
 第三十二條 下院ノ議員ハ議員タルニ由テ官俸及償額ヲ
 受クルヲ得ス

第六篇 輸出入税及貿易ノ事

第三十三條 獨逸國ハ輸出入税及貿易ノコトニ付テ一ノ疆
 界ヲ以テ區畫シタル領地トス然レモ地理ニ由リ右ノ輸
 出入税ノ疆界内ニ列ス可カラサル隔在ノ領分ハ之ヲ除
 ク○聯邦各國ニ於テ自由ニ用ヒラル可キ諸物ハ輸出入

税ヲ納メスシテ聯邦ノ他國ニ輸入スルヲ得可シ然レ
 モ輸入シタル諸物ト同物ニテ該國ノ國內税アル者ハ輸
 入シタル諸物ニ付テモ亦同一ニ收税スルヲ得可シ
 第三十四條 聯邦ノ市街「ブレームン」及「ハンブルグ」并ニ之
 ニ屬スル傍近ノ領地ハ右ノニケ所ヨリ租稅會ニ加ハラ
 シコトヲ請求スル迄ハ前條ニ掲載シタル全國ノ輸出入税
 ノ疆界外ニ在ル自由港ト看做ス可シ
 第三十五條 凡ソ輸出入税及聯邦ノ領地内ニ於テ製造シ
 タル食鹽烟草火酒麥酒蕪菜糖又ハ他ノ國內ノ產物ヨリ
 製造シタル砂糖及糖蜜ノ課税并ニ聯邦各國ニ收入ス可
 シ

キ國內稅ヲ互ニ相保護シテ密賣ナカラシメ又獨逸全國ノ輸出入稅ノ疆界ヲ守ル爲ニ緊要ナル處分ハ皆ナ帝國ノ立法ヲ以テ之ヲ定ム○「バビエール」及「ウイルテンベルグ」及「バーデン」ノ三ヶ國ニ於テ國內ノ火酒稅及麥酒稅ハ其各國ノ立法ヲ以テ之ヲ定ム然レモ聯邦各國ハ右ノ諸物ニ付キ同一ナル收稅法ヲ施行スルヲ要ス

第三十六條 輸出入稅及國內稅ヲ收メ及之ヲ管理スル事ハ聯邦各國ノ領地内ニ於テ昔時此事ヲナシタル國ニ於テハ將來亦之ヲ行フヲ得○皇帝ハ輸出入稅及租稅ニ關スル上院委員第八條第三項參看ノ評議ヲ受ケ聯邦各國ノ稅關

ノ官吏等及租稅ノ監督官ノ側ニ置キタル帝國官吏等ニ由テ輸出入稅及租稅ノ事ヲ總監ス○帝國一般ノ法律第三十五條ヲ充分ニ施行セサルニ付キ右ノ帝國官吏等ノ爲シタル告訴ハ上院ニ於テ之ヲ論決ス可シ

第三十七條 帝國一般ノ法律第三十五條ヲ施行スル爲メニ緊要ナル行政規則及種々設立ノ事ヲ決定スル時如シ現在ノ規則或ハ設立ヲ保タシムル爲ニハ議長ノ投言ニ由テ必ス之カ決定ヲナス可シ第五條參看

第三十八條 凡ソ稅關及帝國ノ立法ニ關スル此ノ國憲ノ第三十五條ニ掲載シタル租稅ノ收額ハ帝國ノ國庫ニ納

ム可シ○税關及其他ノ租稅ヨリ生スル収額ニ就キ除去ス可キ者ハ左ノ如シ

第一 法律ニ循ヒ及一般行政ノ規則ニ由リ償還ス可キ租稅及輕減ス可キ租稅

第二 過テ課收シタルキ返還ス可キ租稅

第三 租稅ヲ課收シ及租稅ヲ管理スルニ付テノ費額

此第三項中ニ於テ區別ス可キ者ハ左ノ如シ

イ 輸出入稅ニ付テハ外國ニ對シ國境及其近傍ノ地方ニ於テ輸出入稅ノ事ヲ保護シ又ハ輸出入稅ヲ課收スル爲ニ必要ナル費額

ロ 鹽稅ヲ製鹽所ニ於テ之ヲ課収シ又此ノ稅務ヲ管理スル爲ニ命セラレタル官吏等ノ俸給ヨリ生スル費額

ハ 恭菜糖及烟草稅ニ付テハ上院ノ決定ニ循ヒ其稅ヲ管理ス可キ支償ノ爲ニ免除ス可キ償額

ニ 自餘ノ租稅ニ付テハ總テ収額ノ十五分ヲ除去ス

第三十三條ニ掲載シタル輸出入稅ノ疆界外ニ在ル隔在シタル種々ノ領分ハ每歲其國ニ相應シテ定メタル金額ヲ帝國ノ國庫ニ納ム可シ○「バビエール」「ウイルトンベル

グ及「バーデン」ノ三ヶ國ハ火酒及麥酒税ニ付キ帝國ノ國庫ニ納ム可キ金額及右ノ隔在シタル領分ヨリ納ム可キ其國相應ニ定メタル金額ヲ納ムルニ及ハス

第三十九條 三ヶ月間課収セラレタル輸出入税及此ノ國

憲ノ第三十八條ニ據テ帝國ノ國庫ニ納ム可キ國內税ニ

付キ各國税關ノ上等官吏ニテ三ヶ月毎ニ製ス可キ三ヶ

月摘要書及右ノ輸出入税及國內税ニ付キ上等官吏ノ歲

末ニ於テ一歲ノ統計ヲ決算スルヒ税ス可キ決算書ハ各

國ノ監督官ニテ豫メ之ヲ調査シ而シテ其一覽表ヲ編製

シ一切ノ税額ヲ登記シ之ヲ上院ノ國計ニ關スル委員ニ

送付スヘシ○上院ノ國計ニ關スル委員ハ右ノ一覽表ニ

据テ三ヶ月毎ニ各國ノ倉庫ヨリ帝國ノ國庫ニ納ム可キ

金額ヲ假定シ之ヲ上院及各國ニ報告シ而シテ己ノ意見

書ヲ添ヘテ每歲右ノ金額ニ付テノ終リノ決定書ヲ上院

ニ提出シ上院ニ於テ更ニ右ノ決定書ヲ議決ス

第四十條 此ノ國憲ノ種々ノ規定ニ由テ改正セラレサル

部分或ハ此ノ國憲ノ第七條及第七十八條ニ掲載シタル

方式ニ由テ改正セラレサル者ニ付テ一千八百六十七年

八月八日ノ租稅會ノ條約書ニ掲載シタル種々ノ規定ハ

其効ヲ有ス

第七篇 鐵道ノ事

第四十一條 獨逸帝國ノ保護ノ爲メ又一般交通ノ爲メニ必要ト思考スル鐵道ハ其領分ヲ通スル所ノ各國ニテ之ヲ拒ムト雖モ其各國ノ國君權ヲ害フニ非サレハ帝國ノ法律ノ效力ヲ以テシ或ハ帝國ノ入費ヲ以テシ或ハ免許ヲ請負人ニ與ヘテ之ヲ造築スルヲ得可シ右ノ鐵道ニ付テハ同シキ法律ノ効力ヲ以テ「エクスプロブリエシヨ」ノ權ヲ鐵道ヲ民有地ニ造築セントスルキハ評價人ヲシテ地價ヲ積ラシメ地主ニ賠償ヲ與ヘテ造築スル權ヲ得ルノヲ與フルヲ得ヘシ○現立シタル鐵道會社ハ其鐵道ニ新築鐵道ノ接續ヲ拒ムヲ得ス然レモ其接

續ニ關スル費額ハ總テ新築者ヨリ之ヲ支償ス可シ○新築ス可キ并行ノ鐵道或ハ其他競争ノヲ付キ妨止ノ權ヲ從前ノ鐵道會社ニ與ヘタル法律ノ規定ハ帝國中_ニ之ヲ廢ス然レモ既得ノ權ハ尙ホ舊ニ依ル可シ且ツ將來鐵道會社ノ免許ニ於テモ亦此ノ如ク妨止ノ權アルヲ得ス

第四十二條 聯邦各國ノ政府ハ一般來往ノ爲メニ同形ナル網羅狀ヲシテ獨逸鐵道ヲ管理ス可キ約束ヲ立ツ可シ故ニ聯邦各國ニ於テ新築ノ鐵道ハ同一ノ定式ニ據テ之ヲ造リ及器械ヲ備ラ可シ

第四十三條 前條ニ據リ力所能迅速ニ同一ナル普通ノ方

略及器械ヲ用ヒ同一ナル取締規則ヲ施行スルヲ要ス獨逸全國ノ鐵道修繕ハ人民ノ危險ヲ防護シ又ハ其方略及器械類ノ構造ヲ全備セシムルヲ付キ獨逸帝國ハ一切ノ鐵道ヲ監督スルノ權ヲ有ス

第四十四條 獨逸ノ各鐵道會社ハ聯邦各國ヲ通行スヘキ來往ノ爲メニシ及其會社ハ互ニ相整齊シタル時刻表ヲ製スル爲メニ充分ノ速力アル乗客列車並ニ貨物ヲ輸送スル爲メニ緊要ナル載貨列車ヲ設備シ且ツ各鐵道會社ハ乗客及貨物ヲ輸送スル爲メニ直走ス可キ列車ヲ備ヘ而シテ又相當シタル賃銀ヲ得テ一ノ鐵道ヨリ他ノ鐵道

ニ輸送ス可キ方畧ヲ整備ス可シ

第四十五條 帝國ハ鐵道ノ賃銀表ニ付テ監督ノ權ヲ有ス

此監督權ニ由テ政府ノ管理ス可キハ左ノ二件トス

第一 力^{ナレハキ}所能^{タケ}迅速ニ獨逸ノ鐵道ハ同一ノ規則ヲ用ユ可キヲ

第二 賃銀表ハ力所能均一ニシテ且ツ低價ナルヲ要

ス特ニ石炭及半燒石炭及薪木礦物石材食鹽鑛材糞料等ノ諸物ニ於テ農作及製造ノ要用ニ適宜ナル賃銀表ヲ用ヒ可成ナレバ「アイン」ペンニ「グタリ」一「道」一里毎ニ「目」方百斤ニ「一」凡我ニ「厘」ニ當ル賃銀ヲ用ユヘキ

第四十六條 急變ノ時特ニ飢歲ノ場合ニ於テハ各鐵道會社ハ穀物粉類豆類及馬鈴薯等ニ付テ上院ノ管轄シタル委員第八條參看ノ發議ニ由リ皇帝ヨリ定ム可キ當時ノ必要ニ相當シタル格別ナル低價ノ賃銀表ヲ設ク可シ然レ其賃銀表ハ此ノ國憲ノ第四十五條ノ第二項ニ記載スル所ノ諸物ニ付テノ賃銀表ヨリ低下ナル可カラス○右ノ規定并ニ第四十二條ヨリ第四十五條ニ至ル迄ニ掲載シタル條則ハ「パビエール」ニ於テ之ヲ用ユ可カラス○然レ「パビエール」ニ對シ獨逸國ヲ保護スル爲ニ鐵道ヲ築キ

及ヒ其要具ヲ備フルニ付テノ同一ナル規定ヲ用ユ可キ
 一チ議院ノ決定ニ由テ命令スルノ權ハ帝國ニ在リトス
 第四十七條 獨逸國ヲ保護スル爲ニ獨逸全國ニ於テ鐵道ヲ使用スルコトニ付テ帝國政府ノ求メハ各鐵道會社之ヲ拒マヌシテ承諾スヘシ特ニ兵隊及軍用品ハ適宜ノ賃銀ヲ得テ輸送ス可シ

第八篇 郵便及電信ノ事

第四十八條 凡ソ郵便及電信ノ事ハ獨逸帝國中諸國ノ交際ノ爲メニ同形ナル設立トシテ之ヲ整頓シ及之ヲ管理ス可キ者トス○第四條ニ記載スル所ノ郵便及電信ノ事

ニ關スル帝國ノ立法ハ北獨逸聯邦ノ郵便局及電信局ニ
施行シタル規則及右ニ關スル行政ノ規定ニ付テ之ヲ用
ユ可カラス

第四十九條 郵便局及電信局ノ收額ハ帝國一般ノ爲メナ
リ其局ニ付テノ入費ハ帝國一般ノ入額ヨリ支給ス可キ
者トス餘金ハ帝國ノ大藏省ニ納ム可シ(原註)第十
二篇參看

第五十條 皇帝ハ郵便局及電信局ヲ指揮スル最上ノ權ア
リ皇帝ヨリ命シタル所ノ官吏等ハ郵便局及電信局ノ管
理及施行ノ方法ニ於テモ又該局ノ官吏等ノ適任ニ於テ
モ全國中同形ナラシムルハ其人等ノ義務及權利ナリト

ス○皇帝ハ該規則及行政ノ規定ヲ設クルノ權ヲ有シ又
ハ外國ノ郵便局及電信局トノ交通ヲ專ラ整理スルノ權
アリ○郵便局及電信局ノ官吏ハ必ス皇帝ノ命令ニ遵フ
可シ此義務ハ該官吏等ノ宣誓中ニ在ル者ナリ○郵便及
電信ノ各局ニ於テ上等ノ官吏(原註)頭取及評議官及等ヲ
第一等檢査官ヲ謂フニ於テ郵便局及電信局ヨリ任セラレタル
監督官(原註)總監及監
督官ヲ謂フヲ命スルヲハ皇帝ヨリ帝國一般ニ
向テ爲ス可キ者トス右ノ官吏等ハ皇帝ニ對シテ職務ニ
付テノ誓詞ヲ宣フ可シ聯盟各邦ノ政府ノ承諾ヲ得又其
布告ヲナサシムル爲メニ右ノ官吏等ヲ命シタルヲニ付

テ其關係シタル國ノ政府ニ速ニ通知ス可シ○郵便局及電信局ニ在ル所ノ各官吏等并ニ郵便及電信ノ種々ノ事務ヲ管理スル官吏等ハ其關係シタル聯盟各邦ヨリ任命ス可キ者ナリ○獨立シタル郵便局及電信局ナキ聯盟各邦ニ於テハ其郵便及電信ノ一切ノ事件ハ現ニ成立ツ所ノ種々ノ條規ニ循フ可シ

第五十一條 第四十九條ニ從ヒ郵便ノ餘金ヲ帝國ノ大藏省ニ納ム可キヲニ付キ聯盟各邦ニ於テ從前得タル所ノ餘金ハ大ナル差違アルガ故ニ相當シタル平均ヲ得ル爲メニ此下ニ記載スル時間中ニ用ユ可キ方法ハ左ノ如シ

○聯盟各邦ニ於テ千八百六十一年ヨリ千八百六十五年ニ至ル迄五ヶ年間得タル所ノ郵便ノ餘金ヨリシテ一年間平均ノ金額ヲ計算ス可シ其平均ノ金額ヨリシテ聯盟各邦共同シテ帝國大藏省ニ納ム可キ金額ニ付テ各邦ノ納ム可キ割合ヲ定ム可シ○聯盟各邦ハ帝國ノ郵便局トナル時ヨリ八年間右ノ如ク定メタル割合ニ從テ其各邦ノ帝國ノ大藏省ニ納ム可キ金額ハ各邦ヨリ帝國ノ大藏省ニ納ムル割合金ノ勘定ニ入ル可シ○八年ノ時間ノ終リタル後ニ至リ右ノ方法ハ用ヒス而シテ郵便ノ一切ノ餘金ハ第四十九條ニ記載シタル規定ニ從テ直ニ帝國ノ

大藏省ニ納ムヘシ○右ニ記載スル所ノ八年ノ時間中ハ
ンゼスタット」ノ三ヶ所ノ郵便局ヨリ生スル餘金ノ割合
金ノ半數ハ每歲豫メ皇帝ニ之ヲ納ム可シ而シテ皇帝ハ
之ヲ以テ「ハンゼスタット」ニ於テ獨逸帝國ノ規則ニ合シ
タル郵便局ノ設立ヲ爲ス可シ

第五十二條 第四十八條ヨリ第五十一條ノ四ヶ條ニ記シ
タル種々ノ規定ハ「バビエール」及「ウイルトンベルグ」ニ於
テ之ヲ用ユ可カラズ其代トシテ右ノ二ヶ國ニ於テ用ユ
可キ規則ハ左ノ如シ○郵便局及電信局ノ種々ノ特權ニ
付キ又ハ郵便及電信ト國民トノ關係ヨリ生スル所ノ種

々ノ權利ノ事ニ付キ又ハ「バビエール」及「ウイルトンベル
グ」ノ國內ノ交際ニ付テ郵便及電信ノ賃銀ノ規則ノ外賃
銀及無賃ノ事ニ付テノ總テノ法律ノ事ハ帝國ノミニ屬
ス○「バビエール」及「ウイルトンベルグ」ノ聯盟各邦ニ非サ
ル隣國トノ交際ニ係ラサレハ郵便及電信ノ外國トノ交
際ニ付テノ規則ハ又帝國ニ屬ス可シ「バビエール」及「ウイ
ルトンベルグ」ノ聯盟各邦ニ非サル隣國トノ交際ノ事ハ
昔時ノ如ク千八百六十七年十一月二十三日ノ郵便條約
ノ第四十九條ニ循フヘシ○聯名各邦ヨリ帝國ノ大藏省
ニ納ム可キ郵便及電信ノ餘金ノ事ニ付キ「バビエール」及

「ウイルトンベルク」ノ二ヶ國ハ之ニ關係セサルナリ

第九篇 海軍及航海ノ事

第五十三條 帝國海軍ハ皇帝ノ指揮ニ屬スル只一ノ海軍
 タリ皇帝ハ海軍ノ構制ヲナシ海軍ノ文官及武官ヲ任命
 ス海軍ノ官吏等及兵卒ハ皇帝ニ對シ誓詞ヲ宣フ可シ○
 「キール」及「ヤーデ」ノ二港ハ帝國ノ戰港トス○海軍ヲ設立
 シ及海軍ヲ保持シ又其他海軍ノ種々ノ設立ニ關シタル
 費額ハ帝國ノ國庫ヨリ支給ス可キ者トス○帝國ノ水夫
 等并ニ船ノ機關ニ關シタル人々又ハ造船場一切ノ職工
 ハ帝國ノ海軍ニ従事スルノ義務アリテ陸軍ニ従事スル

ノ義務ナシ○每歲海軍ニ徵募ス可キ人員ノ比例ハ聯邦
 各國ニ現住シタル水夫等ノ多寡ニ由ル者トス右ノ比例
 ニ從テ各國ノ海軍ニ備フル所ノ人員ヲ陸軍ニ備フ可キ
 人員ヨリ差引ク可シ

第五十四條 聯邦各國ノ商船ハ只一ノ商船隊トス○帝國
 ハ商船ノ噸數ヲ量ル可キ方式ヲ定メ噸數ノ證書ヲ出シ
 又ハ商船ノ其他ノ書類ノ事ヲ定ム可シ又帝國ハ商船ノ
 船將ノ免許ヲ求ムルニ付テノ規則ヲ定ム可シ○聯邦各
 國ニ於テノ港及天然河溝及人造河溝ニ於テ聯邦各國ノ
 商船ハ均ク通航ヲナシ又均ク之ヲ取扱フ可シ航海ノ設

立ノ燈臺及浮標ノ爲メニ各港ニ於テ海船及其荷物ニ付テ
 ノ収税ハ其設立ヲ保テ及此等ヲ修理スル爲メニ必要ナ
 ル費額ニ超過ス可カラス○總テ天然河溝ニ於テ課ス可
 キ租税ハ航行ヲ助ル設立ノ爲メノミニ課ス可キ者ナリ
 右ノ収税并ニ聯盟各邦ニ屬スル所ノ人造河溝ヲ航行ス
 ルニ付テ課ス可キ租税ハ航海設立ノ普通ノ修理ノ爲メ
 ニ必要ナル費額ニ超過ス可カラス筏ニ於テハ航行ス可
 キ河溝ノミニ於テ右ノ規則ニ循フ可シ○外國ノ船及其
 荷物ニ付テ聯盟各邦ノ船及其荷物ニ付テ取立ル所ノ租
 税ト違フタル租税或ハ夫レヨリ多キ租税ヲ課スルトハ

聯盟各邦ノナス可カラザル事ニシテ帝國ノミノナス可
 キヲナリ

第五十五條 海軍及商船ノ國旗ハ黑白赤色トス

第十篇 領事ノ事

第五十六條 獨逸帝國一般ノ領事ハ皇帝ノ監督ニ屬ス可

シ皇帝ハ貿易及交際ニ付テ上院ノ委員 第八條參看ノ決議
 ニ由テ一切ノ領事ヲ任命スルノ權アリ○獨逸帝國ノ領
 事ノ管轄内ニ於テ其後聯盟各邦ノ領事ヲ設ク可カラス
 獨逸帝國一切ノ領事ハ其管轄内ニ於テ領事ヲ設ケサル
 聯盟各邦ノ爲メニ其各邦ノ領事一切ノ職務ヲ盡ス可シ

渾テ現ニ成立ツ所ノ聯盟各邦ノ領事ハ上院ノ見込ニ從
ヒ聯盟各邦ノ損害ヲ生セサル爲メ獨逸帝國ノ一切ノ領
事ノ編制ヲ成就シタル日ヨリ之ヲ廢ス可シ

第十一篇 帝國陸軍省ノ事

第五十七條 凡ソ獨逸人ハ兵籍ニ入ルノ義務アリ然レモ

代人ヲ以テ其義務ヲ施行スルヲ得ス第五十三條ニ記
載スル所ノ海軍
ハ此限ニ非ス

第五十八條 帝國陸軍省ニ付テノ入費及租税ハ聯盟各邦

或ハ人民ノ等級ニ付テ輕重ナキ様同一ニ聯盟各邦ト其
人民トニ課ス可シ公ケノ安寧ヲ害セスシテ右ノ租税ヲ

同一ニ課スルヲ能ハサル時其租税ノ不足ヲ補フ事ハ議
院ノ決議ヲ以テ公平ニ之ヲ定ム可シ

第五十九條 凡ソ健康ナル獨逸人ハ七年間乃チ滿二十歲

ヨリ二十八歲迄常備隊ニ屬ス可シ乃チ七年内ノ初メ三

年間ハ軍隊ニ在リ後ノ四年間ハ預備隊ニ屬シ而シテ其

後五年間ハ「ランドウエール」民ニ屬ス可シ昔時ヨリ右ノ

十二ケ年間ヨリ長キ時間ヲ用ヒタル各邦ハ帝國ノ陸軍

ニ混亂ヲ生セサル爲メ漸チ以テ其長キ時間ヲ十二ケ年

ニ縮ム可シ○預備隊ニ屬スル人ノ他ニ移住スルヲハ民

兵ニ屬スル者ノ移住ノ定規ニ循フ可シ

第六十條 本年十二月三十一日ニ至ル迄安寧ノ時間獨逸陸軍ノ人員ハ千八百六十七年ノ獨逸全國ノ人口百分一ノ割合ヲ以テ之ヲ定ム可シ故ニ聯盟各邦ハ其割合ヲ以テ兵卒ヲ獨逸帝國陸軍省ニ備ヘ置ク可シ本年十二月三十一日後安寧ノ時間ニ陸軍ノ人員ヲ議院ノ決議ヲ以テ定ム可シ

第六十一條 此國憲ヲ布告シタル後ニ普魯西國一切ノ軍律ヲ直ニ獨逸帝國中ニ施行ス可シ(普魯西國一切ノ軍律トハ舊法律ヲ謂フ即チ唯其法律ヲ施行セシメ又ハ其法律ノ意味ヲ釋明シ又ハ其法律ノ不備ヲ増補スル爲メニ

示シタル種々ノ規則命令及布達等ナリ就中千八百四十五年四月三日ノ陸軍刑法及陸軍治罪法千八百四十三年七月二十日ノ「エーレンゲリキテ」陸海軍士官軍律ノ事ニ付テ之ヲ裁判スル爲メニ付テノ規則又ハ戰爭ト安寧トヲ論セス新兵ヲ召募スルト又ハ兵役ノ時間ノ事又ハ兵卒ヲ養フト又ハ兵卒ノ陣營ノ事又ハ農民ノ田地ノ損害ヲ償フト又ハ戰爭ノ豫備ノ事等ニ付テノ種々ノ規則ナリ)然レモ普魯西國陸軍ノ教法ニ關涉シタル事件ハ此規則ヨリ取除ク可シ○右ノ規則ニ循ラテ獨逸帝國陸軍ノ編制ヲ成就シタル後チ帝國ノ詳明ナル軍律ノ草案ヲ

上院及下院ノ決定ヲ請求スル爲メ其兩院ニ進呈ス可シ
 第六十二條 獨逸帝國一般陸軍及其陸軍ニ關シタル種々
 ノ建造物ニ付テ一切ノ入費ノ償トシテ第六十條ニ循フ
 テ安寧ノ時間ニ陸軍人員ノ一人宛ニ二百五十「ターレン」
 一「ターレン」ハ凡ソノ割合ヲ以テ各國人民ヨリ本年十二
 月三十一日迄皇帝ニ納ム可シ第十二篇參看○本年十二月三十
 一日ノ後ニ聯盟各邦ハ右ノ金額ノ割合ヲ以テ前年ノ如
 シ毎年帝國大藏省ニ納ム可シ其金額ヲ算計シテ定ムル
 一ハ帝國ノ議院ノ決定ノ更改アラサル迄ハ第六十條ニ
 假定シタル陸軍人員ニ由テ之ヲ定ム可シ○獨逸帝國一

般陸軍及種々ノ建造物ノ爲メニ右ノ金額ヲ費用スル一
 ハ豫算表ノ決定ニ從フ可シ○陸軍豫算表ヲ決定スル一
 ハ此ノ國憲ニ定リタル所ノ陸軍編制ノ方法ヲ以テ其豫
 算表ヲ決定ス可シ第五十八條ヨリ第六十一條迄參看
 第六十三條 獨逸帝國一般陸軍ハ戰爭ト安寧トノ時間ヲ
 問ハス皇帝ノ指揮ニ屬スル只一ノ陸軍ナル可シ○總軍
 隊ハ各々番號ヲ揭示ス可シ總テ兵卒ノ衣服色及其裁縫
 ノ仕方等ハ普魯西ノ陸軍ノ現ニ用フル服式ト同一ナル
 可シ聯盟各邦ノ國君ハ其各邦ノ兵卒ノ用フル帽印及袖
 印等ヲ定ムルノ權アル可シ○獨逸陸軍總隊ノ人員及軍

備ヲ整フルヲ又ハ軍隊ノ編制ト士官及武器ヲ具備スル
 一又ハ鍊兵ノ事又ハ士官等ノ學力ノ適任シタルヲ等ヲ
 監シ且ツ此等ヲ注意スルハ皇帝ノ義務ト權利トニ在ル
 ナリ故ニ皇帝ハ何時ニテモ聯盟各邦ヨリ召募シタル軍
 隊ノ景狀ヲ檢閲シ而シテ其檢閲ノ時認メタル其不備ヲ
 整理ス可キヲ命スルノ權アル可シ○皇帝ハ聯盟各邦
 ヨリ召募ス可キ軍隊ノ人員編制及其區分ヲ定メ而シテ
 豫備隊ノ編制及聯邦領地内ニ守備兵ヲ置キ又ハ帝國陸
 軍ノ總軍隊戰爭ノ準備ヲ命スルノ權アル可シ○帝國陸
 軍一般ノ管轄ヲナスヲ其兵卒ヲ養フヲ及武器ヲ備具ス

ルヲ同一ナルヲ必要トスル爲メニ其以後普魯西ノ軍
 隊ニ布告シタル一切ノ規則書ヲ第八條ノ第一項ニ記載
 スル所ノ陸軍及各所ノ城堡ノ事ニ關スル委員ヨリ聯盟
 各邦ノ軍隊ノ各將官ニ送致シ而シテ聯盟各邦ノ軍隊ハ
 之ヲ遵守ス可シ

第六十四條 總軍隊ハ必ス皇帝ノ命令ヲ遵守スヘシ而シ
 テ此命令ニ遵フ可キ義務ハ兵卒ノ誓詞ニ在リトス○聯
 盟各邦ノ一ヶ國ヨリ召募シタル軍隊ヲ司ル士官又ハ聯
 盟各邦ノ數ヶ國ヨリ召募シタル軍隊ヲ司ル士官又ハ諸
 ノ城堡ノ事ヲ司ル指揮官ハ皇帝之ヲ任命ス可シ皇帝ノ

任命スル所ノ各士官ハ皇帝ニ對シテ誓詞ヲナス可シ聯盟各邦ヨリ召募シタル軍隊中將官タル者假リノ代理ヲ命スルコトニ付テハ皇帝ノ承諾ヲ得ルヲ必要トス○普魯西ノ軍隊或ハ聯盟各邦ノ軍隊ニ於テ皇帝ノ命ス可キ諸士官ヲ命ズルキハ其官位ヲ進メルト進メザルトヲ問ハス皇帝ハ帝國陸軍各隊ノ士官中ヨリ之ノ等ヲ撰フノ權アル可シ

第六十五條 皇帝ハ聯盟各邦ノ領地内ニ城塞ヲ築造スルノ權アル可シ若シ陸軍ノ定額金ノ不足ナルキハ皇帝ハ第十二篇ニ從フテ右ノ城塞ヲ築造スル爲メニ必要ナル

金額ヲ求ムルノ權アル可シ

第六十六條 昔時ヨリ別段條約ノ變更シタル規定アレサルキ又ハ第六十四條ヲ除クノ外ハ聯盟各邦ノ國君或ハ「ハンゼスタット」ノ元老院ハ自己ノ國ヨリ召募シタル所ノ軍隊ノ士官ヲ任命スルノ權アル可シ聯盟各邦ノ國君ハ其國ニ屬スル所ノ軍隊ノ總將官タリ又其職務ニ關係スル種々ノ名譽ヲ受ク可シ聯盟各邦ノ國君ハ其軍隊ヲ監督スルノ權アル可ク而シテ通例ノ陳述書及達書ヲ除クノ外自己ノ國ニ於テ軍隊ニ關シタル昇級及新任アルキハ陸軍省ヨリ速ニ之ヲ其國君ニ通知シ又其國君ヨリ之

ナ其軍隊ニ通知ス可シ○又聯盟各邦ノ國君ハ國ノ取締
ノ爲ニ自己ノ軍隊ヲ使役スル而已ナラス自己ノ國ニ備
ヘ置キタル帝國陸軍ノ他ノ軍隊ヲ呼出シ而シテ之ヲ使
役スルノ權アル可シ

第六十七條 何レノ場合ニテモ豫算表ニ定メタル所ノ陸
軍ノ資金ニ付テ其費用ノ殘金アルキハ聯盟各邦ノ政府
ニ屬セスシテ必ス帝國ノ大藏省ノ貯金トナル可シ

第六十八條 聯盟各邦ノ安寧ヲ害スルコトアルキ皇帝ハ聯
盟各邦ノ領地ノ何レノ部分ヲモ「クリーグス、ツスタンド」
戰争ノ時武官ハ文官ニ先キ立ニ定メ而シテ之ヲ布告ス
ナ諸般ノ事務ヲ司ルヲ云フ

ルノ權アル可シ○右ノ如キ皇帝ノ規定ニ付テ「クリーグ
ス、ツスタンド」ノ形勢之ヲ布告スルノ方法及其効驗ノ三
件ヲ定ムル所ノ帝國ノ法律ノ設アラサル間一切ノ事ハ
千八百五十一年六月四日ノ普魯西法律ノ諸件ニ循フ可
シ

第十一篇ノ追加

此十一篇ニ記載シタル種々ノ規則ハ「ハビエール」ニ於テ
千八百七十年十一月二十三日ノ同盟條約ノ第三篇ノ第
五條ノ規定ニ循フテ施行ス可シ「ウイルトンベルグ」ニ於
テ千八百七十年十一月二十一日ノ陸軍ニ關シタル條約

ノ規定ニ循フテ此等ヲ施行ス可シ

第十二篇 帝國大藏省ノ事

第六十九條 帝國ノ歲出入ハ毎年之ヲ見積リ而シテ之ヲ豫算表ニ記載ス可シ此豫算表ハ其歲入ヲ費用スル年ノ前年ニ於テ此下ニ記載スル所ノ規則ニ循ヒ議院ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム可シ

第七十條 前年ノ殘金輸入税國內税及郵便局電信局ノ諸入額等ハ帝國ノ入費ヲ償フ爲メナリ帝國ノ諸入費ヲ償フ爲メニ右ノ金額ノ不足ナルモハ帝國ノ租税ノ收入セサル時間聯盟各邦ハ其人口ノ割合ニ因テ其不足分ヲ納

ム可シ「ライクスカンツレル」大宰相ハ毎年豫算表ノ不足及

聯盟各邦ノ納ム可キ部分ヲ布告ス可シ

第七十一條 帝國ノ諸入費ハ通例一年間ニ定ム可シ然レ

モ格別ノ場合ニ於テハ一年ヨリ長キ時間ニ定ムルヲ得可シ○第六十條ニ記載スル所ノ假規則ヲ用フル時間陸軍ノ入費ニ付テ明細ナル豫算表ヲ下院ニ進呈ス可シ

七十二條 帝國ノ諸入額ヲ費用スルコトニ付キ「ライクスカンツレル」ハ其責任ヲ解ク爲ニ明細ナル豫算表ヲ毎年上院及下院ニ差出ス可シ

七十三條 非常ノ入費アル場合ニ於テハ兩院ノ決定ヲ

以テ金額ヲ借リ又帝國ノ名義ヲ以テ其借金ヲ保證スル
コトヲ得可シ

第十二篇ノ追加

「バビエール」ノ軍隊ノ入費ニ付キ第六十九條及第七十一
條ノ規則ヲ用フ可キコトハ第十一篇ノ追加ニ記載シタル
所ノ千八百七十年十一月二十三日ノ同盟條約ノ規定ニ
由ル可シ又其軍隊ノ入費ニ付テ第七十二條ノ規則ヲ用
フ可キコトハ「バビエール」ノ軍隊ノ爲メニ必要ナル金額ヲ
「バビエール」ニ出シタルコトヲ上院及下院ニ陳述ス可キコ
トニ

第十三篇 爭論ヲ判決シ及刑罰ヲ行フ事

第七十四條 帝國ノ成立保全安寧及國憲ニ對セル諸般ノ
未遂ノ罪又ハ口述書付出版繪圖等ヲ以テ上院及下院ヲ
侵スノ罪又ハ兩院ノ議員及帝國ノ上等下等ノ官吏等ハ
其職務ノ事ニ關シテ上ニ擧グル罪ヲ犯ス者ヲ聯盟各邦
ニ於テ裁判シ及之ヲ罰スル時其之ヲ裁判シ及之ヲ罰ス
ルノ方法ハ各國ニ於テ其兩院ノ議員ト上等下等ノ官吏
ニ對シテ侵シタル罪ヲ聯盟各邦及其各邦ノ國憲ニ定ム
ル所ニ照準シテ同様ノ法律ニ循フ可シ

第七十五條 第七十四條ニ記載スル所ノ獨逸帝國ニ對セ

ル種々ノ未遂罪ハ聯盟各邦ニ於テノ未遂罪ト同様ナル
 歟ナ其各邦ノ法律ニ照準シ而シテ其罪大逆又ハ謀反ニ
 適シタル罪ナラハ「リユベック」ニ在ル三ヶ所ノ「ハンゼスタッ
 ト」ノ最上等裁判所而已ニ於テ之ヲ裁判ス可シ○右ノ最
 上等裁判所ノ其裁判權ト治罪權トニ關シタル種々ノ權
 限ハ帝國ノ法律ニ定メタル方法ヲ以テ之ヲ決定ス可シ
 若シ帝國ノ法律ノ設アラサル時ハ聯盟各邦ノ裁判所ノ
 裁判權及治罪權ノ事ハ從前用ヒタル規則ニ循フ可シ
 第七十六條 聯盟各邦數ヶ國ノ爭論ハ私法ニ關セサルキ
 ニハ通常ノ裁判所ニ於テ之ヲ裁判スルヲ能ハサル故ニ

其爭論ニ關シタル一方ノ國ノ訴訟上ニテ上院之ヲ判決
 ス可シ○國憲ニ關シタル爭論ヲ判決ス可キ官吏ヲ定メ
 サル聯盟各邦ニ於テ其爭論アルキハ之ニ關シタル一方
 ノ訴訟上ニ付テ上院へ訴へシキ其上院ハ親シク之ヲ勸
 解スヘク或ハ之ヲ勸解スルヲ能サルキハ上院ノ決定ヲ
 以テ之ヲ判決ス可シ
 第七十七條 聯盟各邦ノ一國ニ於テ裁判ヲナスヲ肯セサ
 ル事アリテ法律ノ通常ノ方法ヲ以テ之ヲ勸解スルヲ能
 サルキ右ノ事ニ付テ其各邦ノ國憲及法律ニ循フテ之ヲ
 判決ス可キ真正ノ訴ナルキハ上院之ヲ受ク可シ而シテ

裁判ヲナスヲ肯セサル各邦ノ政府ニ於テ其事ヲ裁判セシム可シ

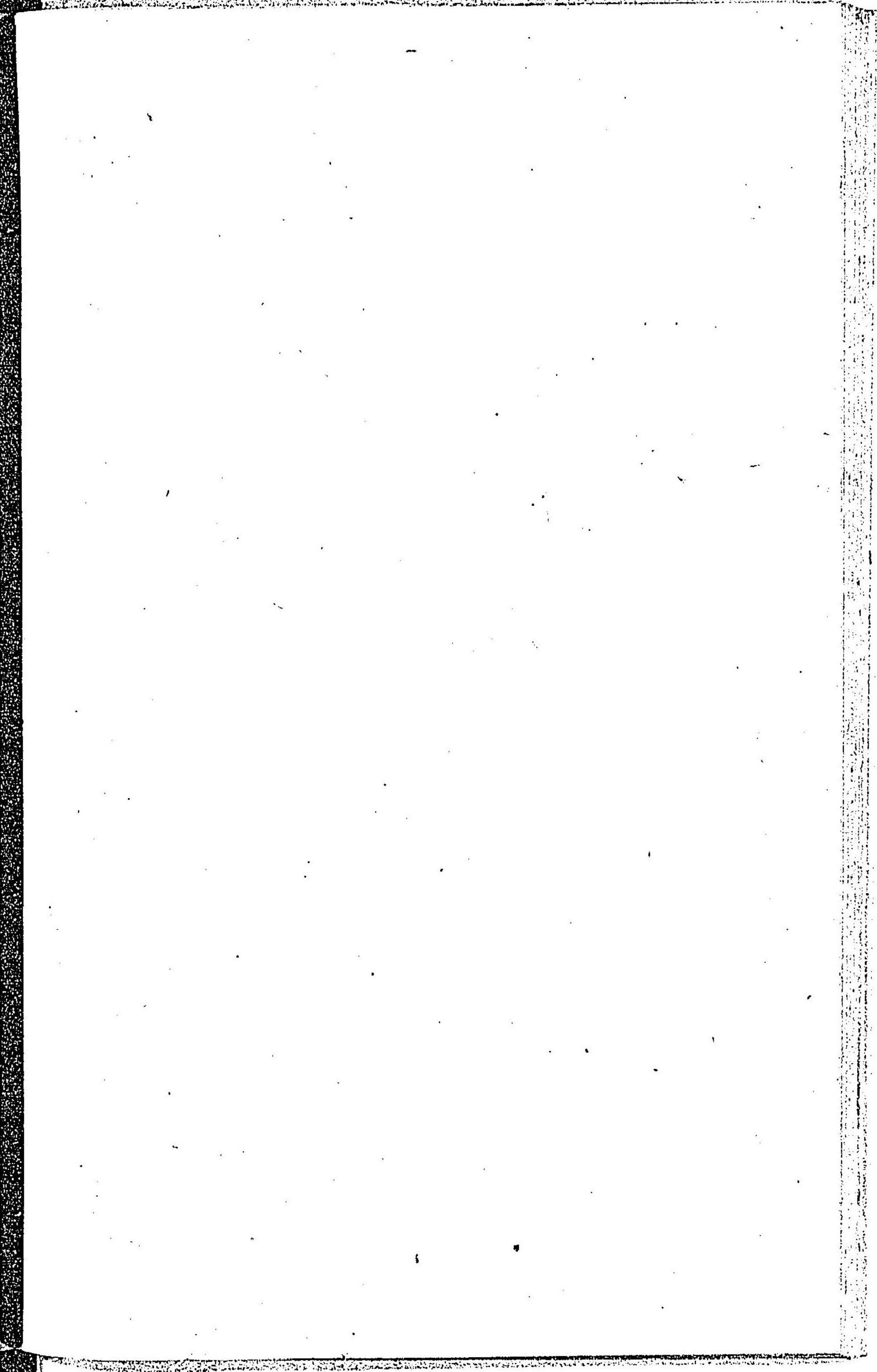
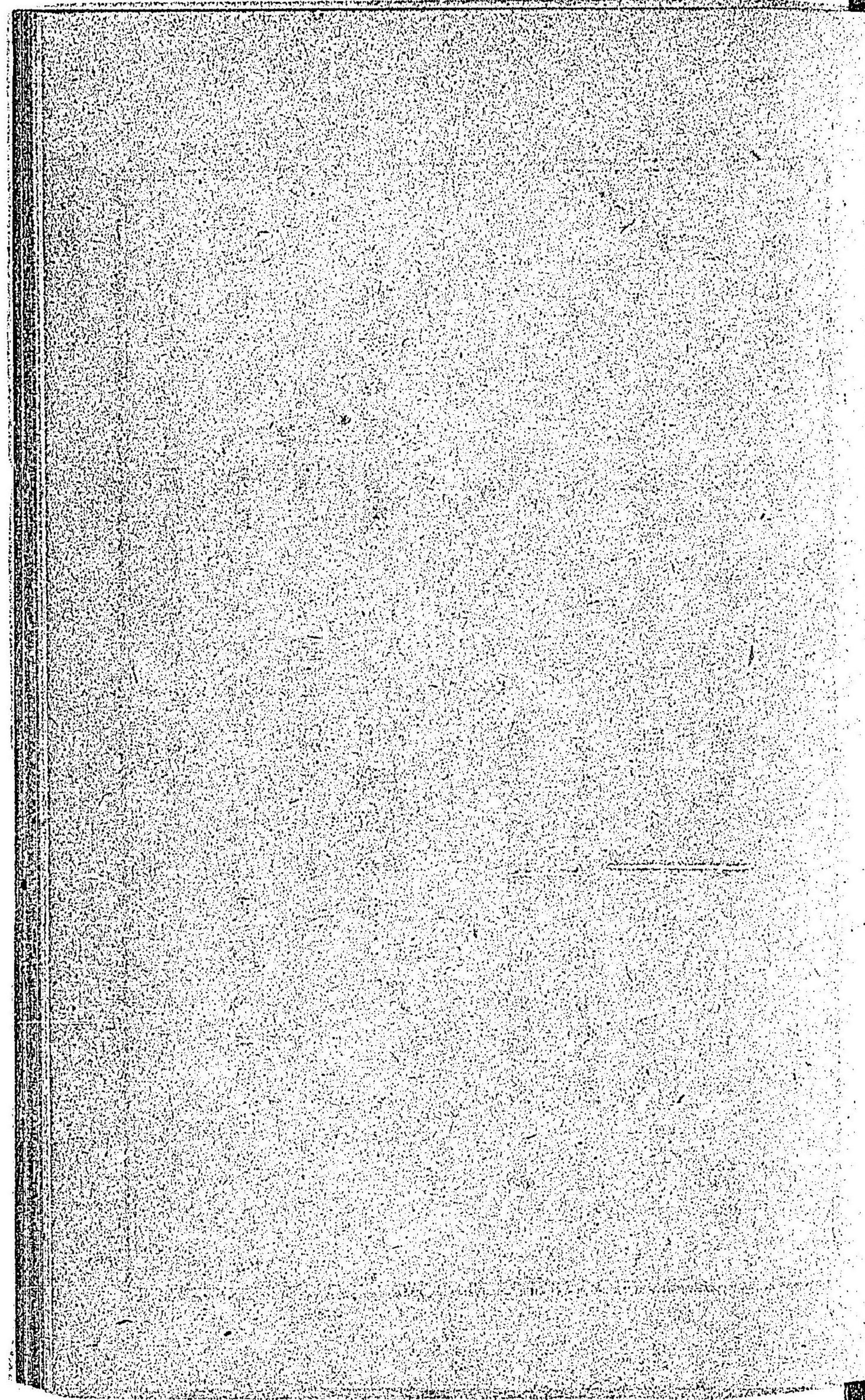
第十四篇 一般ノ規則

第七十八條 立法ノ通常ノ方法ヲ以テ此國憲ノ改正ヲナスコトヲ得可シ然レモ上院ニ於テ十四ノ投言ノ第六條其改正ノ事ヲ拒ムキハ改正ヲナスヲ得可カラス○聯盟各邦ノ一國ト帝國トノ關係ヨリ生スル權利ニ付テ帝國國憲ノ種々ノ規則ハ其各邦ノ承認ヲ得スシテ改正ス可カラス

獨逸國憲終

謬誤追正

- 六 第三行 [儉]ハ[險]ノ誤
- 八 第一行 [パビエール]ノ下[及]ヲ脱ス
- 十一 第四行註 [年]ノ上[一]ヲ脱ス
- 十八 第五行 [一]ノ下[チ]ヲ脱ス
- 二十七 第九行 [菓] 並ニ[甜]ノ誤
- 三十一 第四行 [恭]



澳地利國憲

佛國ラフェリエール 纂輯

同バトビール 訂正

大書記生 田中耕造 譯述

權大書記官河津祐之 校閱

澳地利帝國國憲 千八百六十七年十二月二十一日修正公布ス

第一篇 國民ノ通權トロンビチヨニ關スル憲法

第一條 凡ソ帝國議會レイクスターノ代理スル諸王國及ヒ部屬ノ人民ハ皆澳地利國民ノ通權ヲ有ス

法律ニ於テ澳地利國民ハ如何シテ其權理ヲ得或ハ失ヒ及ヒ之ヲ行フヲ定ム

第二條 全國民ハ、法律ノ前ニ於テ平等トス、

第三條 凡ソ國民ハ皆文武官吏タルヲ得ヘシ、外國人ハ澳地利國民タルノ權理ヲ得ルノ後、始メテ官吏タルヲ得許ス

第四條 澳地利國ニ進入シ及ヒ運貨スルカ爲メニ決シテ制限ヲ設ケス

邑ニ住居シ、土地工業又ハ歲入アルノ故ヲ以テ該邑ニ租稅ヲ納ムル國民ハ元來該邑ニ貫屬スル人民ト同一ノ約

束ニ於テ、邑ノ代議人ヲ選ヒ及ヒ之ニ選ハル、ノ權理ヲ有ス

兵役ニ服スル義務ニ因ルノ外遷徙外國ニ遷徙ノ自由ヲ制限セス

彼此兩國互ニ定約スル場合ヲ除クノ外遷徙ノ稅ヲ課スルヲ得ス

第五條 私有ハ、侵犯スヘカラス法律ニ定メタル場合ニ於テシ、及ヒ之ニ揭ケタル規例ヲ踐履スルニ非サレハ私有主ノ意ニ違フテ、沒收ヲ行フヲ得ス

第六條 凡ソ國民ハ邦内何レノ地方ニ於テモ居住ヲ占メ

諸種ノ土地ヲ享有シテ自由ニ之ヲ處置シ及ヒ均ク諸工業ヲ營ムヲ得ヘシ

然レモ凡ソ永襲ノ地マシモルト寺院貧院等ニ附屬シテ永世ニ關シ

テハ公益ノ爲メニ法律ニ因リ土地ヲ得ルノ權及ヒ之ヲ處置スル權ノ制限ヲ定ムルヲ得

第七條 嗣後ヒアンヘキド藩建地及ヒウラステーシユ陪屬ヲ廢ス凡ソ土地ノ掌有ニ附

帶スル課務及ヒ賦稅ハ償贖スルヲ得ヘシ又嗣後ハ何レノ土地ニ於テモ償贖スヘカラスナル課務ヲ命スルヲ得ス

第八條 人身ノ自由ハ保固トス故ニ人身自由ニ關スル千

八百六十二年十月二十七日ノ法律ハ此憲法ノ部内ニ入ル

凡ソ法ニ違フテ命令シ又ハ放免ヲ怠リタル拿捕ハ其損害ヲ被リタル者ニ政府ヨリ償金ヲ拂フヘシ

第九條 住居ハ侵犯スヘカラス故ニ住居不侵ノ權理ニ關スル千八百六十二年十月二十七日ノ法律ハ此憲法ノ部内ニ入ルト公告ス

第十條 信書ノ秘密ハ侵スヘカラス凡ソ信書ヲ勾收スルハ現在ノ法律ニ依リ法ニ適シタル拿捕又ハ家中探索ノ場合ヲ除ク外戰時若クハ法衙ノ斷案ニ據ルニ非サレ

ハ之ヲ行フヲ得ス

第十一條

凡ソ國民ハ皆上言ノ權ヲ有ス法律ニ認メタル

公會若クハ結社ニ限リ連衆一名ニテ上言スルヲ得

第十二條

澳地利國民ハ集會及ヒ結社ノ權ヲ有ス此權ノ

受用ハ別法之ヲ定ム

第十三條

各人民ハ法律ニ定メタル制限ヲ守リ言語、文字、

印刷、繪畫ニヨリ自由ニ其思想ヲ述ルノ權ヲ有ス又著刻

ノ自由ニ監査若クハ前許ノ制限ヲ設ケス且行政府ヨリ

發出スル驛遞ノ制禁外國ノ新報等ノ國ニ害アルヘキモ

リナハ之ヲ國內ノ活版書ニ準用スルヲ得ス

第十四條

法教及ヒ靈知ノ自由ハ全國人民ノ爲メニ之ヲ

保固ス

民權及ヒ政權ノ享有ハ人民奉スル所ノ宗旨ニ拘ハルヲ

ナシ然レモ何レノ場合ヲ論セス法教ノ自由ヲ行フカ爲

メニ國民タルノ義務ヲ缺クヲ得ス

何人ニテモ寺院ノ訓命ヲ行ヒ又ハ法教上ノ儀式ニ參ス

ヘシト強迫サル、ヲナシ但シ法律ニ因リ此權ヲ委任セ

ラレタル者ニ隸屬スルキハ格別ナリトス

第十五條

凡テ法律ニ認メタル寺院若クハ法教講社ハ教

務ヲ公行スルノ權ヲ有ス該寺院及ヒ講社ハ其内部規則

ヲ定メテ獨立管理シ禮拜。教育。施濟。ノ爲メニスル堂閣贈遺物及ヒ金額ヲ受有ス然レモ國法ニ從フテ他ノ諸會社ニ同シ

第十六條 法律ニ認メサル法教ヲ奉スル者ハ國法及ヒ風儀ニ戾レルコトナク私設ノ堂館ニ於テ教務ヲ行フコトヲ得

第十七條 學科及ヒ教授ハ自由トス
凡ソ國民法ニ循ヒ其器能ヲ檢證セシメタルニ於テハ教育館ヲ建立スルコトヲ得
私立教育ハ右ノ約款^{コンベンション}ヲ守ルニ及ハス

齋舍ニ於テ法教ノ教育ハ其隸スル寺院若クハ法教講社ニ屬ス

政府ハ總テ公ケノ教育ヲ統理監督スルノ權ヲ有ス

第十八條 各人民ハ其職業ヲ擇ミテ隨意ニ營生スルコト自由トス

第十九條 凡ソ國內各種族ノ人民ハ皆同權ヲ有シ各其國^{ナリテ}

情ト國語トヲ保存練習スルタメ不拔ノ權ヲ有ス

政府ハ帝國內ニ於テ使用スル諸國語ニ對シ教育及ヒ公務ニ用ヰラルヘキ平等ノ權ヲ承允ス

數種族ノ混居スル邦土ニ於テハ各其固有ノ國語ヲ教授

スルニ須要ナル方法ヲ得決シテ他種族ノ國語教授ニ向
ヒ之ヲ壓制スルノ方法ナキヲ旨トシテ公立學校ヲ建設
スヘシ

第二十條 第八第九第十第十二第十三條ニ掲載スル權理
ヲ暫時及ヒ一地方ニ停止スルヲ得ヘキ場合ハ別法之
ヲ定ム可シ

第二篇 レクシヤト 帝國議會ニ關スル憲法

第一條 帝國議會ハ澳地利帝國ヲ代理スルモノナリ分チ
テ上院下院ノ二局トス
何人モ上下院ノ議員ニ兼テ任スルヲ得ス

第二條 成年ノ皇族ハ門地ニ依リテ上院議會ノ員ニ入ル

第三條 本國ノ貴族ニシテ所有ニ富ミ皇帝ヨリ上院世傳
議官ノ稱ヲ授ケタル成年ノ家主ハ世傳ノ議官タリ

第四條 凡ソ帝國貴族ノ稱ヲ有スルアルシユエシ長大教
「エヴェク」長ハ高僧ノ官ニ在ルノ故ヲ以テ上院ノ議官タ
リ

第五條 皇帝ハ國事。教門。文學若クハ技術ニ勉勵シテ世ニ
其名ヲ知ラレタル拔群ノ秀士ヲ上院ノ終身議官ニ任ス
ルノ權ヲ有ス

第六條 下院ハ公撰議士二百三員ヲ以テ成ル但シ各王國

各部ニ於テ公撰スヘキ議士ノ員數ヲ限ルコト左ノ如シ

伯國王國 ホエールム 五十四員

搭馬王國 タルマシー 五員

牙里西及ヒ羅多米里王國 カリシ 哥拉可維 三十八員

安斯河東ノ澳地利部 アンス 附 十八員

安斯河西ノ澳地利部 アルシニエー 十員

薩耳不爾厄侯國 サル 三員

士的里亞侯國 スチ 十三員

加郎西侯國 カラ 五員

「ガルニオル」侯國 ガルニオル 六員

布哥維納侯國 ビニコビクス 五員

默隣部 モラビーマルクラビアン 二十二員

上下細勒西亞侯國 シレ 六員

的羅爾伯國 チロル 十員

窩拉爾堡 ホラ 二員

壹士的里亞部 イス 二員

廓里西及ヒ略拉日斯加 クリ 二員

得利益府及ヒ其屬地 トリ 二員

第七條 各州ニ於テ定員ノ代議士ハ各州會議員ノ撰舉スル所トス

撰擧ハ投撰ノ過半数ヲ以テスヘシ但シ各部府郷ニ設ル州會ノ議員中ヨリ該部府郷ニ配當セル定員ニ不過及ナキ下院ノ代議士ヲ投選スルヲ以テ制トナス

各部府郷選舉區ノ畫域及ヒ該區中ヨリ選舉スヘキ代議士員ノ配當ハ州會ノ起議ニ因リ憲法之ヲ定ムルニ非レハ修改スルヲ得ス

皇帝ハ特別ノ形情アリテ州會ヨリ下院ニ代議士ヲ派遣スルヲ能ハサルニ際シ部府若クハ郷ニ命令シテ直接撰擧ラ部府郷ノ人民ヲ直チニ自チ行ハシムルヲ得ヘシ

直接撰擧ニ各部府郷ノ選舉區ニ定メタル下院代議士ノ員數ニ照シ該區ニ於テ州會議員ノ撰擧ニ參與スル人民之ヲ行フヘシ又嗣後設定スヘキ直接撰擧及ヒ撰擧區ノ畫域ニ關スル條則ハ憲法ノ式ニ倣フテ規制スヘシ

第八條 下院ノ代議士ニ拔撰セラレタル政府ノ官吏ハ其代議士ノ職ヲ行フタメニ離職ヲ請フヲ要セス

第九條 皇帝ハ會期ノ間議官中ヨリ上院ノ議長及ヒ副議長ヲ任命ス

下院ハ自ラ代議士員中ヨリ其議長ト副議長トヲ推選ス又兩院ハ各自ラ其他ノ吏員書記官以下ノ撰擧ス

第十條 帝國議會ハ成ルヘキタケ毎歲冬月ニ皇帝之ヲ召集ス

第十一條 帝國議會ノ權任ハ廣ク其代理スル諸王國及ヒ部屬ニ共通ノ權義公益ニ關スル法制ノ諸事ニ及ブ但シ該王國部屬ト匈牙利國所屬ノ地トニ兼テ關スル事件ハ此限ニアラス

左ニ掲クルモノヲ以テ帝國議會ノ權任トナス

第一 貿易ノ條約及ヒ帝國ノ全部若クハ局部ノ責任ヲ生シ又ハ國民ニ課務ヲ命シ又ハ帝國議會ノ代理スル王國及ヒ部屬ノ疆域ノ變更ヲ致スヘキ國事條

約ノ檢査及ヒ決可

第二 凡テ兵役執行ノ方法及ヒ其規則ト期限トニ關スル事件就中毎歲召募スヘキ徵兵員ノ定限及ヒ豫備馬匹ノ賦課兵士ノ糧食屯營ノ總則ニ關スル事件

第三 政府ノ歲計豫算表ノ規則及ヒ諸租稅賦課ノ每歲決議政府ノ決算表并ニ會計管理成跡ノ檢査新公債證券ノ發出政府舊債ノ變替官地ノ賣易貸與專賣并ニ特權ノ法律總テ帝國議會ノ代理スル全王國部屬ニ通スル會計諸般ノ事務

第四 金銀貨銅貨及ヒ銀行證券ノ發出ニ關スル事務

ノ規則稅關貿易、電線、驛遞、鐵道、航運ノ事件其他帝國
通運ノ方法

第五 證券、銀行、工業ノ特準、度量衡、製造ノ模型記印ノ
保護ノ法律

第六 醫藥ノ法律及ヒ傳染病家畜疫疾防護ノ法律、

第七 國民權即チ及ヒ歸化ノ法律、外國人取締法、路券
ドロアシトアインドロアシヒク及ヒ人別點檢ノ法律、

第八 各法教ノ關係集會結社ノ權著刻才藝上ノ私有
權保護ノ法律、公立小學校及ヒ中學校ニ於テ教育原
プロテクシオンドロアプロプリエターアン
シレクチュエル旨ノ例規大學校ノ法律

第九 懲治罪裁判所違警罪裁判所及ヒ民法裁判所ノ
法律但シ州ノ布令及ヒ此憲法ニ依リ州會ノ權任ト
スル事務ノ法律ハ此限ニアラス

商法、兌換法、海上法、ドロアマリチム礦坑及ヒ藩建地ノ法律

第十 司法官及ヒ行政官構制ノ基本法

第十一 國民ノ通構大法院司法權行政權ニ關スル諸
憲法ヲ執行スルニ須要ナル法律

第十二 各部相互ノ義務及ヒ關係ニ涉ル總般ノ法律

第十三 匈牙利國所屬ノ諸部ト共通ナリト認メタル
事務ヲ處分スルノ規程ニ關スル法律

第十二條 此憲法ニ依リ帝國議會ニ明カニ附與セサル立法ノ諸件ハ皆該議會ノ代理スル王國及ヒ部屬ニ設クル州會ノ權任ニ入ル故ニ憲法ニ依準シ該州會ニ於テ之ヲ規定ス然レモ州會ニ於テ制定スヘキ某件ヲ帝國議會ニ於テ論議裁定スヘシト決スレハ其時ニ限り之ヲ帝國議會ノ權任ニ置ヘシ

第十三條 法律議案ハ政府ヨリ帝國議會ニ送付ス然レモ帝國議會モ亦其權內事務ノ法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス何レノ場合ニ於テモ法律ニ眞確不易ノ力ヲ與フルニハ上下兩院ノ諧同ト皇帝ノ制可トヲ必要トナス

サンクシオン

會計法ニ於テハ用途金額クレジ各省察ノ用ニニ關シ點徵法ニ於テハ募兵ノ員數ニ關シ論議數回ニ及ヘトモ兩院ノ説相協ハサル時ハ募兵若クハ金額ノ最少數ヲ以テ諧同ノ定數ト見做スヘシ

第十四條 憲法ニ依リ帝國議會ノ裁定スヘキ事件ヲ緊急ニ處分セサルヲ得サルニ臨ミ議會ノ會開會セサルハ全執政官其責ニ任シ詔書ヲ下シテ之ヲ處決スルヲ得然レモ之カタメニ憲法ヲ廢棄シ國庫ニ永久ノ責任ヲ生シ及ヒ官地ヲ賣付スルニ至ルヲ得ス但シ全執政官該詔書ノ條章ニ手署シ此憲法ノ例規ニ定ムル制限ヲ踰越

ツールミニステール

スルコトナキニ於テハ假リニ法律ノ力ヲ有スルモノト
 ナス
 右ノ詔書ハ公布スルノ後始メテ開キタル帝國議會ノ會
 議ニ政府ヨリ之ヲ示スヲ怠リ及ヒ下院ノ議士召集ノ
 日ヨリ四週日間ノ後ニ至リ猶ホ之ヲ該院ニ移サレルキ
 又ハ兩院ノ中ニテ之ヲ承允セサルキハ其法律タルノ力
 ナ失フ
 全執政官ハ右詔書ノ假有スル法律ノ力ヲ失フタル日ヨ
 リ即時ニ其廢棄ノ責ニ任ス
 第十五條 凡ソ帝國議會ノ決裁ヲ眞確不易ノ者トナスニ

ハ下院ノ議士百名上院ノ議官四十名出席シ及ヒ兩院ニ
 於テ各公評人ノ過半数ヲ得ルヲ必要トス
 凡ソ帝國議會ノ代理スル王國及ヒ部屬ノ人民ノ通權大
 法院ノ構制司法權太政權并ニ行政權ノ職掌ニ關スル憲
 法ノ改正ヲ眞確不易トナスニハ少クモ公評ノ多數全議
 員三分ノ二以上ニ至ルヲ必要トス

第十六條 下院ノ議士ハ其撰舉者ヨリ委任訓狀ヲ受クヘ
 カラス
マンダーアンベラナフ

帝國議會ノ議員ハ決シテ其職務ヲ執行スルヲメニ行フ
 タル公評ノ責ニ任セス獨リ其隸屬スル院ニ對シ職務ヲ

執行スルタメ發議スルノ責ニ任スルノミ
 凡ソ帝國議會ノ議員ハ其會議ノ際ニ於テ現行犯罪ノ場
 合ヲ除キ本人ノ隸屬スル院ノ承允ヲ得ルコトナシ司法上
 ノ手續ヲ以テ之ヲ拿捕シ若クハ糺治スルコトヲ得ス
 現行犯罪ノ場合ニ於テモ裁判所ヨリ即時ニ議員ヲ拿捕
 セシコトヲ該院ノ議長ニ通知スヘシ
 議院ヨリ請求スル所アラハ會議ノ時間犯罪議員ノ禁獄
 ナ停メ糺治ヲ廢スヘシ議院ハ會期時限ノ外ニ議員中ノ
 モノヲ拿捕シ若クハ糺治スルニ當リ亦タ同上ノ權ヲ有
 ス

第十七條 凡ソ帝國議員ハ自身ニ公評スベシ

第十八條 各州ヨリ下院ニ派遣スル議士ノ任務ハ新タニ
 州會議員ヲ召集スルノ日ニ至リテ乃チ廢ス
 各州ヨリ派遣スル前任ノ議士ハ再タヒ其撰ニ當ルコトヲ
 得

議士死去シ身位カバシテハルコトヲ失ヒ故障アリテ久シク議會ニ出席セ
 ス職務ヲ退罷シ若クハ之ヲ派遣シタル州會ノ議員ノ職
 ナ止ムルキハ宜ク之ヲ新選スベシ

第十九條 帝國議會ノ延會及ヒ下院ノ散會ヲ決定スルノ
 權ハ皇帝ニ屬ス

散會ノ場合ニ於テハ第七條ニ準シ新クニ議員ノ撰擧ヲ行フ

第二十條 執政及ヒ大政府各務ノ長官ハ帝國議會ノ諸議ニ參與シ及ヒ自カラ起議シ又ハ議員ニ附シテ起議スルヲ得

上下各院ハ執政ノ出席ヲ請求スルヲ得

執政ハ請求スレハ常ニ發議スルヲ得然レモ其上院若クハ下院ノ議員タルキニアラサレハ公評ニ參スルノ權ヲ有セス

第二十一條 帝國議會ノ各院ハ執政ニ各其職掌トスル事

務ヲ詰問シ政府ノ措置ヲ検査シ上言書ノ説明ヲ執政ニ求メ執政ヲシテ需要ナル報知ヲ致サシムヘキタメノ委員ヲ命ジアドレックス通牒及ヒレソルシヨ決判ノ規式ヲ以テ該委員ヨリ其意見ヲ發スルノ權ヲ有ス

第二十二條 國債検査ノ方法ハ別法之ヲ定ム

第二十三條 上下兩院ノ會議ハ公行トス然レモ兩院ハ議長若クハ少ナクモ議員十名ノ請求スルニ當リ聽衆ヲ退クルノ後該院ニ於テ之ヲ可ト決スルキハ特ニ秘密會議ヲ開クノ權ヲ有ス

第二十四條 院内事務施行ノ細則上下兩院相互ノ關係及

ヒ其他ノ官省トノ關係ハ特別ノ條例ヲ以テ之ヲ規定ス
ヘシ

第三篇 澳地利通國ノ事務及ヒ之ヲ處分スル方法ニ
關スル憲法

第一條 左ニ舉グル條件ヲ以テ帝國議會ノ代理スル王國
部屬及ヒ匈牙利所屬ノ國ニ普通ナル者ト公告ス

第一 外國事務但シ外國ニ派遣スル交際務及ヒ貿易
務ノ使節ノ事及ヒ國際條約ノ件皆之ニ入ル、此等ノ
條約ニ關シ、憲法ヲ以テ須要ト定メタル決可ノ權ハ
帝國兩部ノ議院 帝國議會及ヒ匈ニ屬ス
牙利國議會ヲ云

澳

第二 軍務但シ帝國海軍ノ事務モ亦之ニ入ル然レモ

募兵ノ員數ヲ定ムル法律兵役ヲ踐行スル方法ニ關
スル法律軍兵ノ移轉及ヒ管理ニ關スル條則及ヒ軍
兵ノ關係。權義ニ關スル規則ハ此限ニアラス

第三 通國ノ支費就中歲出入豫算表ノ制定及ヒ決算
表ノ檢査等ノ會計事務

第二條 左ニ舉グル條件ハ通國ノ事務ニ非サレモ宜ク通
國事務ノ原旨ニ循テ處分スヘシ

第一 貿易事務就中稅關法ニ關スル諸件

第二 專ハラ人工ヨリ生スル產物ニ屬スル間稅ノ法

プロシエクシオンアンジエストリエル

律

第三 貨幣條例及ヒ利子ノ制定

第四 帝國ノ兩部 帝國議會ノ代理スル國トニ通スル
匈牙利所屬ノ國ト云

鐵道線ニ關スル規則

第五 內國防禦策ノ設定

第三條 帝國ノ兩部ハ皇帝ノ制可シタル帝國兩部議院ノ
定時ノ判決ニヨリ定ムヘキ金額ノ割合ヲ以テ通國事務
ノ費用ヲ支フ此一件ニ付兩部議院ノ說相協ハサルキハ
皇帝宜ク帝國兩部ニ於テ支フヘキ費額ノ割合ヲ限定ス
ヘシ然レモ之ヲ本年ニ限ル

帝國兩部ノ一ニ關スル課稅ヲ決定スルノ權ハ特ニ各部
ニ屬ス

然レモ通國事務ノ費用ヲ補足スルタメ通國ノ公債ヲ作
スヲ得ヘシ而シテ凡ソ該公債ノ決定其享用并ニ還債
ニ關スル事件ハ兩部ニ於テ合議スヘシ又帝國兩部ノ議
員ハ各別ニ通國ノ公債ヲ作スヘキヤ否ヤヲ論定ス

第四條 帝國ノ各部ニ於テ責任スヘキ現今國債ノ額ハ兩
部相互ノ契約ニヨリテ之ヲ規定スヘシ

第五條 通國事務ノ管理ハ其責任ヲ負フタル「通國事務執
政官」ニ委任スヘシ但シ該執政官ハ帝國ノ各部ニ特殊ナ

ル事務ヲ兼テ掌トルノ權ヲ有セス
全國軍ノ指揮及ヒ編制ヲ規定スルノ權ハ特ニ皇帝ニ屬ス

第六條 帝國兩部ノ議院ニ屬スル立法ノ權ハ通國事務ヲ處分スルカタメ該議院ヨリ撰派スル代理官ヲシテ之ヲ執行セシムヘシ

第七條 帝國議會ノ代理官ハ其員數六十名トス但シ其三分ノ一ハ上院ヨリ三分ノ二ハ下院ヨリ撰用ス

第八條 上院ハ其議官中ヨリ公評ノ過半數ヲ以テ代理官ニ任スヘキモノ二十名ヲ撰擧ス下院ヨリ出スヘキ代理

官四十名ハ各州會ノ議員左ノ表ニ準シテ之ヲ撰擧ス但シ各州會ノ議員中ヨリモ又下院ノ議員中ヨリモ均ク之ヲ撰任スルヲ得
公評ノ過半數ヲ以テ左ニ掲グル員數ノ代理官ヲ選舉スヘシ

伯蘭王國

十員

搭馬王國

一員

牙里西及ヒ羅多米里王國哥拉可維公國七員

安斯河東ノ澳地利部

三員

安斯河西ノ澳地利部

二員

薩耳不爾厄侯國	一員
士的里亞侯國	二員
加郎西侯國	一員
布哥維納侯國	一員
默隣部	五員
上下細勒西亞侯國	一員
的羅爾伯國	二員
窩拉爾堡	一員
壹士的里亞部	一員
廓里西及ヒ喀拉日斯加伯國	一員

得利益府及ヒ其屬地

一員

計四十員ナリ

第九條 帝國議會ノ兩院ハ同一ノ方法ニ因リ上院ヨリ十員下院ヨリ二十員ノ代理官補ヲ選舉スヘシ

下院ニ於テ撰ムヘキ代理官補ノ員數ハ正代理官一員ヨリ三員マテノ數ニ對シ補官一員其四員以上ニ補官二員ノ比例ヲ以テ之ヲ定ム

補官ノ撰舉ハ各別ニ之ヲ行フヘシ連名ノ投箋ヲ以テ

第十條 正補代理官ハ帝國議會ニ於テ每歲更撰スヘシ其更撰スルノ日ニ至ルマテ前任ノ正補代理官ハ其職掌ヲ

有スヘシ又代理官ヲ退キタルモノハ再ヒ其撰ニ當ルヲ得ス

第十一條 代理官ハ每歲皇帝之ヲ召集ス其會集スル場所ハ皇帝之ヲ定ム

第十二條 帝國議會ノ代理官ハ其僚員中ヨリ議長。副議長。ヲ撰舉シ及ヒ書記官。其他ノ官吏ヲ任命ス

第十三條 代理官ノ職掌ハ徧ク通國事務ニ及フ其他ノ事務ハ代理官ノ干預スヘキモノニ非ス

第十四條 政府ノ起議ハ通國事務執政官ヨリ各別ニ兩部ノ各代理官ニ移送ス

兩部ノ各代理官ハ其權任内ノ事務ヲ起議スルノ權ヲ有ス

第十五條 代理官權任内ノ事務ニ關スル法律ハ總テ兩部

代理官ノ諧合ヲ須要トス若シ其相諧合セサルヒハ兩代

理官ノ總會議ニ於テ之ヲ決定ス但シ何レノ場合ニ於テ

モ此決定ノ制可ヲ皇帝ニ請フ

第十六條 通國事務執政官ヲ論告スルノ權ハ代理官ニ屬

ス

通國事務ニ關シ現今存置スル憲法ヲ侵スニ當リ兩部ノ代理官ハ通國事務執政官又ハ該執政官中ノ一員ヲ劾告

スルヲメ他ノ代理官ニ通照スヘキ起議ヲナスコトヲ得
劾告ハ兩部ノ代理官各別ニ議決シ又ハ兩代理官ノ總會
議ニ於テコレヲ議決スルヲ以テ法ニ適シテ公告ストナ
ス

第十七條 各代理官ハ其同僚ヲ除キ凡テ其代理スル帝國
ノ兩部ニ居住シテ法律ニ明カナル不羈ノ國民中ヨリ二
十四員ノ判司ヲ推舉ス但シ他ノ代理官ハ其中十二員ノ
任命ヲ拒ムコトヲ得ヘシ
被告人一名タリト又ハ數名タリト共ニ推舉セラレタル
判司中ノ十二員ヲ拒ムノ權ヲ有ス然レトモ之ヲ兩部代理

官ノ推舉スル總員中ニ平均スルヲ要ス
登撰ヲ得タル判司ヲ以テ通國事務執政官ノ劾告ヲ裁判
スル法院ヲ構制ス

第十八條 通國事務執政官ノ劾告訴訟手順裁判ノ細目ハ
該執政官ノ責任ニ關スル別法ヲ以テ之ヲ規定スヘシ

第十九條 兩部ノ代理官ハ各別ニ集會シテ施爲。論議。決定
ス此ノ通則ニ循ハサル特例ハ第三十一條ニ掲ク

第二十條 決議ヲ確的ノモノトナスニハ少ナクトモ代理
官三十員ト議長ト出席シ且起議ニ向ヒ出席シタル議員
ノ公評ノ過半數ヲ得ルコトヲ要ス

第二十一條 帝國議會ノ正補代理官ハ其撰舉者ヨリ委任訓狀ヲ受クヘカラス

第二十二條 帝國議會ノ代理官ハ親ラ其權ヲ受用スヘシ何レノ時機ニ於テ代理官補ノ之ニ代ルヘキヤハ第二十五條ニ定ム

第二十三條 帝國議會ノ代理官ハ帝國議會ノ憲法第十六條ニ依リ帝國議會ノ議官トシテ有スル所ノ人身不侵及ヒ無任責ノ權ヲ享有ス

右ニ掲クル憲法ノ成文ニ依リ議士ニ對シ下院へ與ヘタル諸權利現行犯ヲ除クノ外下院ノ承認ナクシテ議ハ帝士ヲ拿捕糺治スルヲ能ハサル權等ヲ云

國議會ノ閉會ノ際代理官ニ屬ス

第二十四條 帝國議會ノ議員ノ列ヲ去ルモノハ獨リ其故ヲ以テ亦代理官ヲ去ル

第二十五條 正補代理官ノ員缺ルキハ新タニ其撰舉ニ從事ス

帝國議會ノ方サニ開會セサルキハ代理官補ヲシテ本官ノ欠員ニ代ラシム

第二十六條 下院ノ解散スル場合ニ於テハ代理官ノ權任モ亦均ク廢ス

新置ノ帝國議會ハ亦新タニ代理官ヲ撰舉ス

第二十七條 代理官ハ其職務ヲ終フルノ後皇帝ノ許允ヲ以テ議長其會ヲ閉ツヘシ

第二十八條 通國事務執政官ハ凡テ代理官ノ評議ニ參シ親カラ其意見ヲ起議シ又ハ代理官ニ附シテ之ヲ起議セシムルヲ得又タ該執政官發言ヲ求ムルキハ常ニ必ス其議ヲ聽クヘシ

代理官ハ通國事務執政官若クハ其一員ニ詰問書ヲ送り之カ答辨説明ヲ要求シ及ヒ執政官ヲシテ須要ナル報告ヲ致サシムヘキ檢察委員ヲ命スルノ權ヲ有ス

第二十九條 代理官ノ會議ハ公行トス然レモ聽衆ノ在ラ

サル所ニ於テ評議ノ後可ト決スルキハ議長若クハ議官五員以上ノ請ニ應ニ會議公行ヲ置閣スルコトヲ得然レモ議事ノ決定ハ公行會議ニ於テスヘシ

第三十條 兩部ノ代理官ハ其決定及ヒ決定シタル理由ヲ互ニ相通照ス

右ノ通照ハ帝國議會ヨリハ獨乙語、匈牙利國會ヨリハ匈牙利語ニテ記載シタル文書ヲ以テス且兩議會ヨリ互ニ他ノ議會ニ通用スル國語ヲ以テ記載シタル公正ノ譯文ヲ添フ

第三十一條 兩部ノ各代理官ハ兩部合議ノ公評ニ因リ決

ヲ舉グルヲ請求スルノ權ヲ有ス但シ相往復スルヲ三
回ニ及ヒテ其効ナカリシ場合ニ於テ此事ヲ起議スルハ
ハ他ノ代理官之ヲ斥クルヲ得ス
兩部ノ議長ハ兩部ノ代理官合議ノ決ヲ舉シヘキ總會議
ノ場所ト時期トヲ定ムヘシ

第三十二條 總會議ニ於テ議長ノ任ハ更兩部代理官ノ議
長ニ屬ス

抽籤ノ法ヲ以テ兩議長ノ中ヲ何レカ最先ニ議長ノ職ニ
任スヘキヤヲ定ムヘシ第二次以下ノ會議ニ於テハ凡テ
前會ニ議長ノ職ヲ行ハサル代理官ノ議長ヲ以テ長官ニ

充ツヘシ

第三十三條 總會議ニ因テ決定スル所ノモノヲシテ確的
トナスニハ少ナクトモ兩部代理官ノ僚員各三分ノ二出
席スルコトヲ必要トス但シ決定ハ公評ノ過半數ヲ以テ
ス

會議ニ出席シタル甲部ノ代理官ノ員數乙部ノ代理官ヨ
リ多キハ各代理官ノ公評人員ノ平等ヲ得ルカタメ必
要トスル所ニ循ヒ出席スル議員ノ剩數ナル代理官ニ向
ヒ公評ノ禁ヲ行フヘシ但シ抽籤ノ法ヲ以テ公評ヲ避ク
ヘキ議員ヲ決定スヘシ

第三十四條 兩代理官ノ總會議ハ公行トス其調書ハ獨乙、
匈牙利ノ兩國語ヲ以テ兩部ノ書記官之ヲ記載シ且共ニ
之ヲ查照ス

第三十五條 帝國議會ノ代理官ソノ職事ヲ舉行スル細則
ハ該代理官自カラ條例ヲ制シテ之ヲ決定スヘシ

第三十六條 通國事務ニアラスト雖モ通國事務ノ元旨ニ
準シテ處分スヘキ條件第二條ハ左ニ掲クル手續キテ用
井テ兩部ノ諧合ヲ得ルナリ

第一ニ責任ノ執政官法案ヲ整制シテ各別ニ帝國兩部ノ
議院ニ送移ス兩議院其決ヲ舉クルノ後皇帝之レヲ制可

ス

第二ニ兩部ノ議院ニ於テ各平等人員ノ委員ヲ撰舉シ之
ヲシテ兩部ノ執政官ノ起議ヲ聽キテ法案ヲ草セシム而
シテ後此法案ヲ兩部ノ各執政官ヨリ兩部ノ各議院ニ通
照ス該議院ハ定規ニ循フテ之ヲ論議シ決ヲ舉クルニ及
ンテ皇帝ノ制可ヲ請フ

通國事務ニ於ル支費ノ賦課ニ關シ兩部議院ノ諧合ヲ定
ムルニハ特ニ右ノ第二則ヲ守ルヘシ

第三十七條 千八百六十一年二月二十六日ノ帝國議會ノ
憲法ヲ修正シタル此憲法ハ國民ノ通權ニ關スル憲法一第

篇 太政權並ニ行政權篇 第四 司法權篇 第五 及ヒ帝國法院篇 第六

ノ設置ニ關スル憲法ト同シ即時ニ施行スヘシ

第四篇 太政權及ヒ行政權ノ受用ニ關スル憲法

第一條 皇帝ハ神聖ニシテ侵スヘカラス又責任スル所ナ

シ

第二條 皇帝ハ責任ノ執政及ヒ之ニ屬隸スル官吏ニ依テ

太政權ヲ行フ

第三條 皇帝ハ諸執政ヲ命シ及ヒ之ヲ免ス且律法ニ於テ

特ニ命スル所ナケレハ執政ノ啓告ニ因リ政府各務ノ諸

官吏ヲ進退ス

第四條 尊稱華稱及ヒ他ノ榮章ハ皇帝之ヲ賜與ス

チートルテコラシオン

第五條 皇帝ハ軍兵ノ元帥ナリ戰ヲ宣シ和ヲ約ス

第六條 皇帝ハ國事ノ條約ヲ結フ

貿易ノ條約及ヒ帝國ノ全部若シハ局部ノ責任或ハ國民

ノ義務ヲ起スヘキ國事ノ條約ヲ確的ノモノトナスヲメ

帝國議會ノ承認ヲ必要トス

第七條 錢貨ヲ鑄ルノ權ハ皇帝ノ名ヲ以テ行フ

第八條 皇帝ハ即位ノ時帝國議會兩院ノ前ニ於テ左ノ誓

文ヲ宣告ス

帝國議會ノ代理スル諸王國及ヒ部屬ノ建國法ヲ固守

シテ侵スヲナク建國法及ヒ通國ノ法律ニ準據シテ政
チ行フヘシ

第九條 執政ハ各其職掌トスル政治ニ於テ法律及ヒ憲法
チ枉ケサルノ責ニ任ス

執政ノ責任劾告セラレタル執政ヲ處斷スルニ任スル法
院及ヒ踐守スヘキ訴訟手續ハ別法之ヲ定ム

第十條 法律ノ公布ハ皇帝ノ名ヲ以テス但シ建國法ニ準
シテ設置スル議院之ヲ承認シ責任ノ執政之ニ副署ス

第十一條 太政官ハ其權限ヲ守リテ命令ヲ公布シ訓條ヲ
下スノ權ヲ有ス及ヒ法ニ循ヒタル條例ト同ク右ノ命令

訓條ヲ強テ遵守セシムル權ヲ有ス

法律ヲ執行スルヲメニ行政官ニ附スル權及ヒ世治平寧
ヲ保スルヲメニ常備シ若クハ臨時徵募スル軍兵ノ使役
ハ別法之ヲ定ム

第十二條 凡テ政府ノ官吏ハ其職務ヲ執行スルニ於テ建
國法ヲ遵奉シ及ヒ國法州法ヲ以テ規定スル事務ヲ管理
スルニ於テ該法律ヲ踐守スルノ責任アリ

右ノ責任ヲ實踐セシムルハ該官吏ヲ統理シ及ヒ之カ規
律ヲ執ル所ノ行政長官ニ屬ス
律法ニ背キタル命令ヲ發シテ權理ヲ侵犯スル責任官吏

ヲ何如シテ處斷スヘキヤハ法律ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第十三條 凡テ太政官吏ハ憲法ヲ固守シテ侵サ、ルノ誓
ヲ述フヘシ

第五篇 司法權ニ關スル憲法

第一條 凡テ國內ノ裁判ハ皇帝ノ名ヲ以テ決行ス上下等
法院ノ處斷ハ皇帝ノ名ニ於テ行フ

第二條 法院ノ構制及ヒ權任ハ法律ヲ以テ定ムヘシ
法律ニ定メタル場合ヲ除クノ外審判ヲ行フカクメニ非
常法衙ヲ設クルヲ得ス

第三條 軍兵法院ノ權任ハ別法之ヲ定ムヘシ

第四條 警察條例ニ背キ及ヒ租稅ニ關スル犯罪ヲ審判ス
ルニ任スル裁判權ハ法律ヲ以テ定ムヘシ

第五條 判司ハ皇帝若クハ皇帝ノ名ヲ以テ終身其職ニ任
シ轉移スヘカラス

第六條 判司ハ不羈獨立ナリ法律ニ掲ケタル場合ニ於テ
シ及ヒ公正ナル審判ノ故ニアラサレハ之ヲ免黜スルヲ
得ス

法院ノ長官若クハ上等法院ノ命令ニ因ルニ非レハ判司
ヲ停職スルヲ得ス但シ同事ニ訴事ヲ當該ノ判司ニ移
スヲ要ス法律ニ定メタル場合ニ於テシ且之ニ掲ケタ

ル規程ニ準シ審判ニ由リ本人願ハサル轉所若クハ退老
ヲ命スルモ亦之ニ同シ

此條規ハ法院構成ノ改革ニヨリ已ムヲ得サル轉所若ク
ハ退老ニ準用スヘカラス

第七條 法ニ循ヒ公布シタル法律必行ノ力ノ有無ヲ論ス
ルハ法院ノ權ニアラス然レモ法院ハ法ニ適スル爭訟ノ
斷案ノ當否ヲ審判スルヲ得

第八條 凡ソ司法ノ官吏ハ建國法ヲ遵奉シ荷モ犯スナキ
トテ誓約スヘシ

第九條 成規ノ訴訟手續ヲ破リ職ヲ執ルト正シカラサル

司法官ヲ劾告スルヲ得但シ劾告ノ權ハ別法之ヲ定ム
ヘシ

第十條 民事刑事ノ別ナク裁判ヲ任セラレタル判司ノ前

ニ於テスル訴訟ハ言語ヲ以テシ及ヒ公行トス

何レノ場合ニ於テモ右ノ通規ニ拘ハラヌ特例ヲ用ユル

ヲ得ヘキヤハ法律ニ於テ之ヲ定ム

刑事ノ訴訟ニハ檢職ヲ置クヘシ

ミニスタールヒフック

第十一條 法律ニ由リ重刑ニ抵ツヘキ罪凡テ重輕國事犯

若クハ著刻罪犯ハ陪審官其罪ヲ決ス

ジュリ

第十二條 帝國議會ノ代理スル王國及ヒ部屬ノタメニ維

ヒ維

也納澳地利ニ大法院即チ帝トリヒニナルシニブレム破毀法院各一ヶ所ヲ設ク

第十三條 皇帝ハ大赦ヲ下シ法衙ニ於テ法ニ循ヒ裁判シタル刑ヲ赦宥シ又ハ之ヲ減殺スルノ權ヲ有ス但シ執政官ノ責任ニ對シ法律ニ由テ定メタル特例ハ此限ニアラス

第十四條 凡ソ訴告ニ於テ司法上ノ事件ハ行政上ノ事件ト相區別ス

第十五條 凡ソ行政官既成ノ法律ニ因リ又ハ嗣後制定スヘキ法律ニ因リ人民相互ノ訴告ヲ裁決スルノ權ヲ有スル場合ニ當リ此裁決ニ由リ權理ヲ侵サレタル一方ノモ

ノハ司法上ノ普通手續ヲ以テ自由ニ相手方ノ者ニ對シ控訴スルヲ得

此場合ノ外ニ於テ行政官ノ裁決ニ由リ權理ヲ侵サレタルトスル者ハ凡テ行政官ノ代理人ニ對シ行政裁判上應ニ控訴シ公ケニ言語ヲ以テ論辨スルヲ得

行政裁判上應ニ於テ審理スヘキ場合及ヒ其設立并ニ訴訟手續ハ別法之ヲ定ムヘシ

第六篇 帝國法院ノ設置ニ關スル憲法

第一條 帝國議會ノ代理スル王國及ヒ部屬ニ於テ權限抵觸ノ訴及ヒ公權ノ訴件ヲ審斷スルカタメニ帝國法院一

ク所ヲ設置ス

第二條 帝國法院ハ左ニ掲クル權限抵觸ノ訴ニ於テ終審ノ裁判ヲ行フ

第一 法律ニ由リ定メタル場合ニ於テ某ノ訴ハ司法上ノ手續又ハ行政上ノ手續ヲ以テ糾治スヘキ歟ヲ知ルノ困難ニ關シ司法官ト行政官トノ間ニ起リタル權限抵觸

第二 雙方ニテ一ノ行政訴件ヲ決裁スルノ權アリト求ムルキ州會ト太政官局トノ間ニ起リタル權限抵觸

第三 州官ノ監察シ及ヒ管理スヘキ事務ニ於テ數部ノ州政官ノ間ニ起リタル權限抵觸

第三條 帝國法院ハ又別ニ左ノ兩件ヲ裁斷ス

第一 帝國議會ノ全部ニ對シ其代理スル王國部屬ヨリシ及ヒ代理スル王國部屬ニ對シ帝國議會ノ全部ヨリ起シタル訴此等ノ諸王國部屬中ノ一ヨリ他ノ一王國部屬ニ對スル訴及ヒ通常ノ司法手續ニテ裁審スルコト能ハサルキ諸王國部屬中ノ一方ニ對シ邑郷又ハ人民ヨリ起シタル訴

第二 法律ニ由テ定メタル行政上ノ手續ヲ以テ裁決

セラレタルハ建國法ニ因リ保固シタル政權ヲ破ル
トシテ國民ヨリノ訴

第四條 帝國法院ハ某ノ訴件ハ該法院ノ權限内ニ在ルヤ
否ヤヲ判決スル無二ノ判司ナリ凡ソ帝國法院ノ裁斷ハ
控訴シ及ヒ通常ノ司法手續ヲ以テ上告スルヲ得ス
帝國法院ヨリ訴件ヲ普通判司又ハ行政官ニ移シタルハ
該判司若クハ行政官ハ其權限外ヲ辭トシテ審判ヲ拒ム
ヲ得ス

第五條 帝國法院ハ維也納府ニ設置ス該法院ノ官吏ハ議
長、副議長各一名皇帝ノ命ヲ以テ終身官ニ任ス僚員十二

撰

名。副員四名。亦皇帝ノ命ヲ以テ終身官トナス但シ之ヲ撰
舉スルノ方法ハ下院ノ被撰人中ヨリ僚員六名。副員二名
上院ノ被撰人中ヨリ亦僚員六名。副員二名ヲ選用ス
推薦ハ撰用スヘキ官員一名ニ對シ法律學ニ明カナル被
撰人三名ヲ薦ムルヲ制トス

第六條 帝國法院ノ構制訴訟手續及ヒ裁斷ノ執行ハ別法
之ヲ定ムヘシ

安斯河東澳地利部ノ州法

第一章 州議員ノ事

第一條 安斯河東澳地利部ニ於テ凡ソ該部ノ政務ハ州會
之ヲ代理ス

第二條 州議員ニ與ヘタル權理ハ州會若クハ掌事官之ヲ
執行スヘシ

第三條 州會ハ議員六十六名ヲ以テ成ルヲ左ノ如シ

第一 維也納ノ「アルシユヅエー」大教長「サンボルタン」
「ノエウエー」教長各一名

第二 維也納府ノ大學發長一名

第三 公選ノ議員六十三名其選任ノ方法左ノ如シ

甲 土地ヲ富有スル議員十五名

乙 選舉條例ニ由テ指定シタル都鄙ノ議員及ヒ

商工事務局ノ議員合テ二十八名

丙 其他安斯河東澳地利部ニ属スル邑ノ議員二

十名

第四條 皇帝ハ議員中ヨリ議長及ヒ副議長ヲ選ミテ州會ヲ指揮セシム

第五條 選舉條例ハ選舉人及ヒ被選人タルカタメニ如何ナル約款ヲ踐行スヘキヤヲ確定シ更ニ限域スヘキ選舉

區ニ議員ノ配當及ヒ選舉ヲ行フノ方法ヲ定ム

第六條 州會ノ議長副議長ノ任期及ヒ議員ノ權任ハ限リ

テ六年トナス

州會議員ノ選舉ハ選舉人之ヲ廢止スルヲ得ス

州會成規ノ任期盡キタル時期未タ滿サルニ散會スルノ

後又ハ議員ノ罷職若クハ死没ノ時及ヒ議員タルカタメ

ニ須要ナル分限ヲ失フ時ハ新タニ其選舉ニ從事ス

前任ノ州會議員ハ再ヒ其選ニ當ルヲ得

第七條 州會ニ選舉セラレタル議員ハ訓狀ヲ承クルヲ得ス宜ク親ラ公評ノ權ヲ執行スヘシ

第八條 皇帝ノ命ニ因リ召集スル州會ハ必ス毎歲一回ヅ
、會合スヘシ但シ會議ハ維也納府ニ開クヘシ然レモ皇
帝ノ特命アル時ハ格別ナリトス

第九條 議員ハ其職ニ就ク時皇帝ニ忠誠ヲ盡シ恭順ヲ致
シ法律ヲ遵奉シ義務ヲ踐行スルヲ約スヘシ但シ此約
ハ議長ニ對シテ宣誓スヘシ

第十條 議長ハ皇帝ノ召集シタル州會ヲ開キ會議ニ上席
シテ論議ヲ指揮ス
議長ハ州會其職掌ヲ終フルノ後又ハ皇帝ノ詔旨ニ由リ
州會ノ閉會ヲ命ス

州會ハ會期ノ間ト雖モ皇帝之ヲ解散スルヲ得然レモ
同時ニ新々ニ議員選舉ヲ命スヘシ

第十一條 施政及ヒ行法ノ理事職ニ任スル掌事官ハ議員
中ヨリ選舉シタル者六名ヲ以テ成ル而シテ州會ノ議長
之ニ上席ス

議長ハ其不在ノ時掌事官中ヨリ親ラ補官ヲ撰ミ會議ヲ
指揮セシム

第十二條 豪富ノ選舉會ノ推選シタル議員ハ同僚一名ヲ
撰ミテ掌事官ニ任スヘシ
都鄙選舉會並ニ商工事務局選舉會ノ撰命シタル議員及

ヒ邑選舉會ノ撰派シタル議員モ亦各其一名ヲ掌事官ニ撰フヘシ
 其他ノ掌事官三員ハ別々ニ全州會中ヨリ撰擧スヘシ
 凡ソ選舉ハ各公評人ノ過半数ヲ得ヘシ投票二回ニ及ブ
 ト雖モ猶ホ未ダ公評ノ過半数ヲ得サル時ハ第二回ノ投票ニ於テ票數ヲ得ルヲ最モ多キ被選人二名ノ一ヲ更ニ
 投票スヘシ此時得ル所ノ票數同キ時ハ抽籤ノ法ヲ用ヰテ取捨ヲ定ムヘシ
 第十三條 前條ニ定メタル方法ニ循ヒ掌事官各一名ニ補官一名ヲ選フヘシ

會期ノ間時ニ掌事官員死没シ罷職シ又ハ久ク職務ニ與
モツシヨシ アソケル
 カルヲ能ハサル時ハ選ハレテ之ガ補官タル者ヲシテ本官ノ職ニ任セシムヘシ
 州會ノ開會スル場合ニ於テハ掌事官ノ缺員ヲ填補スル
 タメ新タニ選舉ニ從事スベシ
 第十四條 正補掌事官ノ任期ハ之ヲ選舉シタル州會ノ任期ニ同シ然レモ舊州會ノ權任盡キタルノ後並ニ其散會ノ場合ニ當リ新州會ノ更ニ掌事官ヲ撰命スルノ日ニ至ルマテ舊掌事官ノ任期ヲ延ハス
 州會ヲ退キタル議員ハ亦掌事官ヲ止ムヘシ

第十五條 掌事官員ハ維也納府ニ住居スヘシ
掌事官ハ歲俸ヲ國庫ニ受ク但シ其金額ハ州會ニ於テ之
ヲ定ム

第二章 州議員ノ權任及ヒ職掌

第一節 州會ノ職掌

第十六條 州會ハ千八百六十年十月二十日勅裁ノ成規ニ
循ヒ立法權ノ受用ニ任ス又州會ハ帝國議會ノ憲法第六
條ニ掲グル定數ノ議員十八名ヲ帝國議會ノ下院ニ撰派
スヘシ

下院ニ派遣スベキ議員ノ選舉ハ帝國議會ノ憲法第七條

ニ定ムル方法ニ準シテ施行スヘシ
部屬邑郷ニ對シ下院ニ撰派スル議員ノ配當ハ增補律例
ニ於テ之ヲ定ム

第十七條 州ノ利益ニ關スル法案ハ政府ノ起議ノ式ニ於

テ州會ニ附スヘシ

州會モ亦州ノ利益ニ關スル法律ヲ起議スルノ權ヲ有ス
起議ニ法律ノ力ヲ與フルニハ州會ノ承認ト皇帝ノ制可
トヲ必要トナス

既ニ皇帝若クハ州會ノ斥ケタル法案ヲ一會期間ニ起議
スルコト一回ニ及フコトヲ得サルヘシ

第十八條 左ニ舉クル者ヲ州會ノ權任トス

第一 農業公費ヲ以テ築營修補スル公有ノ堂屋凡テ公費ヲ給スル施濟舍及ヒ州ノ會計局ノ收入公益ノタメニスル賦課及ヒ其享用又ハ常費臨時費ニ係リ州ノ會計豫算表及ヒ決算表等ニ關スル總規則

第二 邑務寺務學校事務豫備ノ馬匹徵募軍兵ノ糧食屯營ニ關スル通法ニ含メル特殊ノ規則

第三 其他特別ノ命令ニ由リ州會ニ下附スヘキ州ノ福祚需要ニ關スル事務ノ規則

第十九條 州會ハ左ノ法規ニ於テ意見ヲ述ヘ及ヒ起議書

ヲ作ルヘシ

第一 本州ノ福祚ト特ニ相關涉スル者ニシテ既ニ公布シタル一般ノ法律規則

第二 本州ノ需要スル所ナルヲ以テ請求スルニ因リ公布ニ及フヘキ一般ノ法律規則

州會ハ政府ヨリ之カ意見ヲ述フルヲ求ムル事務ニ於テ起議書ヲ作ルヘシ

第二十條 州會ハ州ニ屬スル特別ノ財產其原因若クハ其所用ニ循ヒ安斯河東澳地利部ノ所有ニ屬スル公有ノ財產及ヒ各個若クハ公共ノ資本ニ由リ設置シ又ハ贈遺シ

タル財産并ニ建物ノ保存ヲ看守スヘシ

公有財産ノ賣與又ハ公有財産ニ永久ノ責任若クハ書入
質ヲ生スヘキ州會ノ決定ハ宜ク皇帝ノ制可ヲ仰クヘシ

第二十一條

州會ハ州ノ有ニ屬スル特別ノ資本州ノ用途

金并ニ州ノ逋債ヲ管理シ及ヒ州ノ責任スル義務ノ踐行
ヲ看守ス

州會ハ諸資本ノ所用ヲ定ムル條規ニ確準シ州ノ資本及

ヒ安斯河東澳地利部ノ逋債還償金及ヒ地稅ノ免除金當

ニ若クハ過分ニ收徵スルニ因テ管理享用ス

第二十二條

州庫通常ノ歲入充足セサル時州會ハ州ノ金

庫及ヒ建物ニ須要ナル財本ヲ得ルノ方法ヲ論議決定ス

是故ニ州會ハ現在ノ租稅百分ノ十ニ至ルマテ増稅ヲ課

スルヲ得直稅及ヒ其他ノ租稅ニ本稅百分ノ十ヨリ多

キ増稅ヲ課スルニハ皇帝ノ制可ヲ必要トナス

第二十三條

邑務ニ關スル州會ノ施爲ハ邑法若クハ特別

ノ邑規ニ因テ之ヲ定ム

第二十四條

租稅ニ關シ就中州ノ直稅ノ收徵及ヒ其享用

ニ係リ州會ノ行フヘキ施爲及ヒ監察ハ特別ノ條規ヲ以

テ之ヲ定ム

第二十五條

州會ハ掌事官ニ隸屬スル官吏若クハ施政務

ニ任スル官吏ノ設置及ヒ其俸給ヲ定ム
又州會ハ此等官吏ノ任命。規律。退老及ヒ恩賜金ヲ決シ及
ヒ其訓條ニヨリテ官吏ノ職務ヲ定ム

第二節 掌事官ノ職掌

第二十六條 掌事官ハ州ノ金庫。財產及ヒ建物ノ通常施政
務ニ任シ大小ノ屬吏ヲ指揮監督ス

掌事官ハ右ニ掲ケタル職事及ヒ其決定書ノ執行ヲ州會
ニ具陳ス及ヒ或ハ州會ヲ招請シ或ハ親テ州會ニ關スル
起議ヲ評論ス

第二十七條 州若クハ昔時ノ州議院ニ屬スル保護ノ權族小

澳

ヲ監護及ヒ推薦ノ權職ヲ去ル時己ノニ代ル僧官叙任ノ
スル權ヘキ者ヲ推薦スルヲ云
權地方ノ建物ニ入舍免許ノ權施濟舍ニ留養スハ掌事官
ルヲヲ許スノ類ハ掌事官
之ヲ執行スヘシ

第二十八條 掌事官ハ凡ソ裁判ノ事ニ於テ州會ヲ代理ス

第二十九條 州會ノ決定書ニハ議長及ヒ掌事官二名手署
シテ州印ヲ捺スヘシ

第三十條 掌事官ハ凡テ昔時ノ州議院ノ職トスル事務ヲ
掌トルヘシ但シ之ヲ他ノ施政官ノ職務ニ屬セス又ハ州
ノ構制ヲ變革スルニ因リ現今目途ナキ事務ニ限ル

第三十一條 掌事官ハ州會ノ會期ニ於テ必需ナル備辦其

會議ヲ開クニ定メタル場所及ヒ州會ニ直隸スル寮局ノ諸器具及ヒ其修理ヲ看守スヘシ

第三十二條 特別ノ邑法及ヒ租税法ニハ掌事官ニ委任シタル事務之ヲ處分スルノ方法及ヒ邑務ト租稅務トニ於テ掌事官ノ施爲ニ係リ更ニ詳精ナル條規ヲ并セ記スヘシ

第三章 事務ヲ處分スル方法

第三十三條 法ニ循ヒ召集シタル州會ハ會議ヲ開キテ其權任トスル事務ヲ論議決定ス
會議ハ議長之ヲ報告。開。閉ス

第三十四條 州會ノ會議ハ公行トス然レモ議長若クハ議員五名以上ノ請求ニ因リ聽衆ヲ遠クルノ後州會ニ於テ可ト決スル時ハ秘密會議ヲ開クヲ得

第三十五條 第一議長ヨリ示シタル政府ノ起議第二通常掌事官若クハ會期間ニ州會議員中ヨリ撰ミタル特設掌事官ノ起議第三諸議員ノ起議ニ因テ諸件ヲ州會ノ議ニ附ス

第三十六條 政府若クハ掌事官ノ起議ト相關係セザル議員ノ起議ハ豫メ文書ヲ以テ之ヲ議長ニ通告シ豫メ掌事官ノ調査ヲ受クヘシ

議長ハ州會權任外ノ事務ニ係ル起議ヲ斥クヘシ

第三十七條 議長ハ論議スヘキ事務ノ順次ヲ指定ス但シ政府ノ起議ハ最先ニ論討決定スヘシ

第三十八條 安斯河東澳地利部ノ知事若クハ其代理委員ハ州會ニ入り何時ニテモ發議スルヲ得該知事及ヒ委員ハ其州會議員ノ列ニ在ル時ヲ除クノ外公評ニ參スヘカラス

政府ノ名ヲ以テ安據ランセイグニヤン若クハ説明ヲ得ンカクメニ政府官員ノ出席ヲ必要トシ又ハ之ヲ欲スル時議長ハ出席ヲ求ムヘキ官員ノ長ニ報通スヘシ

第三十九條 凡ソ決ヲ舉グルニハ州會ノ議員半數以上ノ出席ヲ必要トス其決定ヲ確的ノ者トナスニハ公評ノ過半數ヲ得ルヘシ

論議兩立スル時ハ其起議ヲ廢スヘシ
州法ノ修正ヲ決定スルニハ少クモ議員四分ノ三ノ出席シタル議員三分ノ二ノ承認ヲ得ルヲ必要トス

第四十條 公評ハ言辭ヲ以テス然レモ州會ハ其議長ノ意見ニ循ヒ起坐ノ法ヲ用ヰテ公評スルヲ得
選舉及ヒ任命ヲ行フニハ公評ノ投箋ヲ以テスヒユルタン、ボト言語起坐ノ法ヲ行ハサル
ハサル
チ云

第四十一條 州會ノ決定書及ヒ會議ノ調書ハ州知事ヨリ
皇帝ニ奏上スヘシ

州會ハ親ラ其論議公布ノ方法ヲ決定スヘシ

第四十二條 州會ハ他州ノ州會ト相往來シ及ヒ檄書ヲ公
頒スヘカラス

州會委員ゾビエタシオン州會ヨリ送附スル一二ノ事件ハ州會ノ集議ニ

規定スルニ任スル議會ナリハ州會ノ集議ニ

參スルヲ許サス又州會ノ議員ヨリ出スノ外上言書ヲ

收受スヘカラス
州會ハ預メ勅許ヲ得タルノ後ニ非レハ使員ヲ皇帝ニ送
ルヲ得ス

第四十三條 總掌事官ハ之ニ送附ヲ受ケタル事務ヲ論議

決定スルカタメニ會集スヘシ

其決定ヲシテ確的トナスニハ少クモ掌事官四員ノ出席
ヲ必要トス

議長ハ掌事官ノ決定ヲ以テ公益ニ戻リ若クハ定法ニ違

フト酌量スル時其執行ヲ停閣シ州知事ヲ經由シテ其決
裁ヲ皇帝ニ仰クノ權義ヲ有ス

第四十四條 掌事官ハ獨リ其選舉ヲ受ケタル州會ト相往
來スルヲ得ルノミ又掌事官ハ其委任セラレタル施政
務ヲ除クノ外命令書ヲ公布スルヲ得ス

掌事官ハ州會委員ヲ承受スルヲ得ス

澳地利國憲 畢

陸前仙臺本材木町
杼窪廣成

謬誤追正

十四 第二行

(不過)倒

發 兌 書 肆

東京日本橋通貳丁目十九番地

稻田佐兵衛

同吳服町十二番地

坂上 半七



同川瀬石町八番地

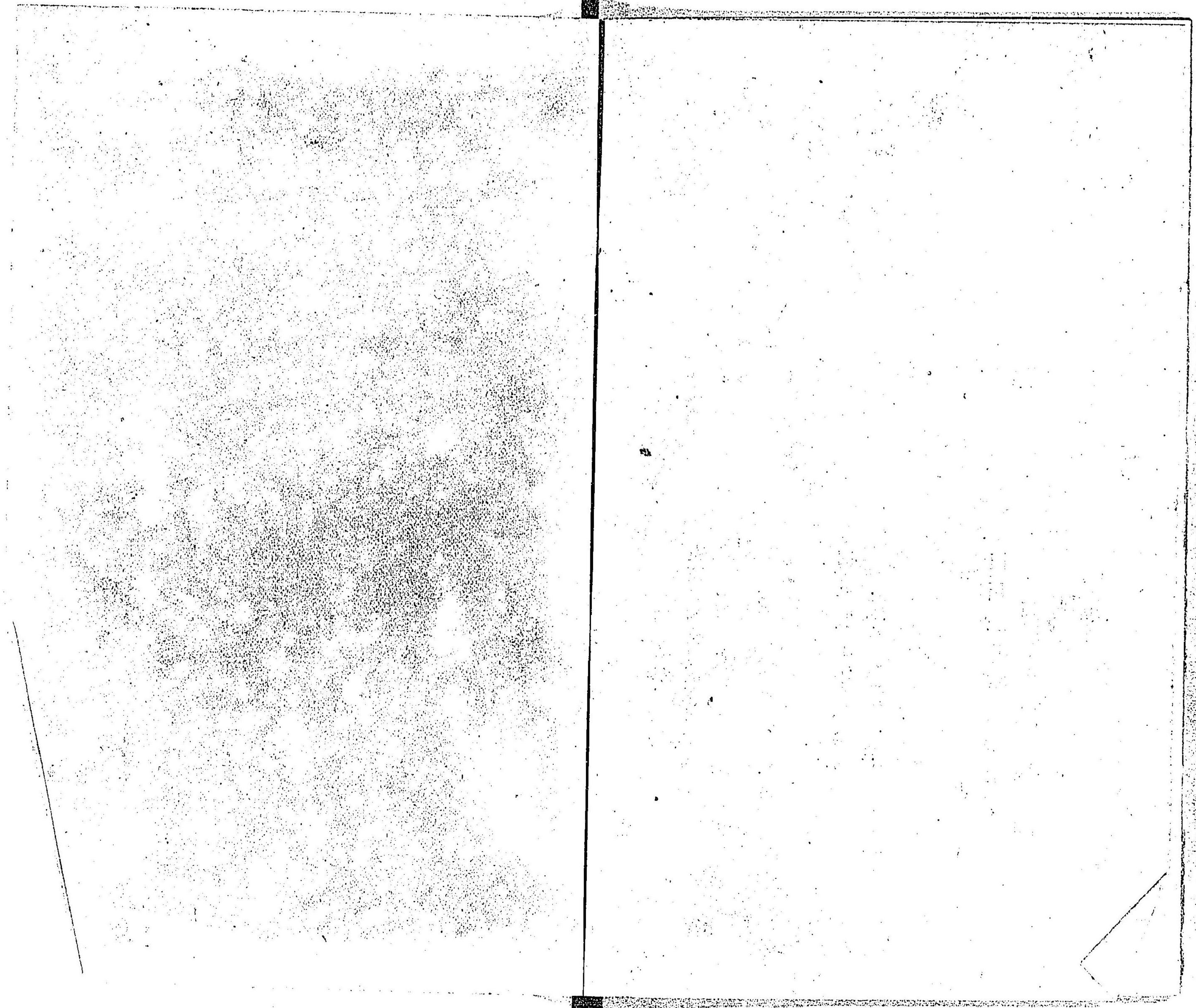
村上勘兵衛

2330
16

~~2330~~
~~2320~~
~~16~~

29162

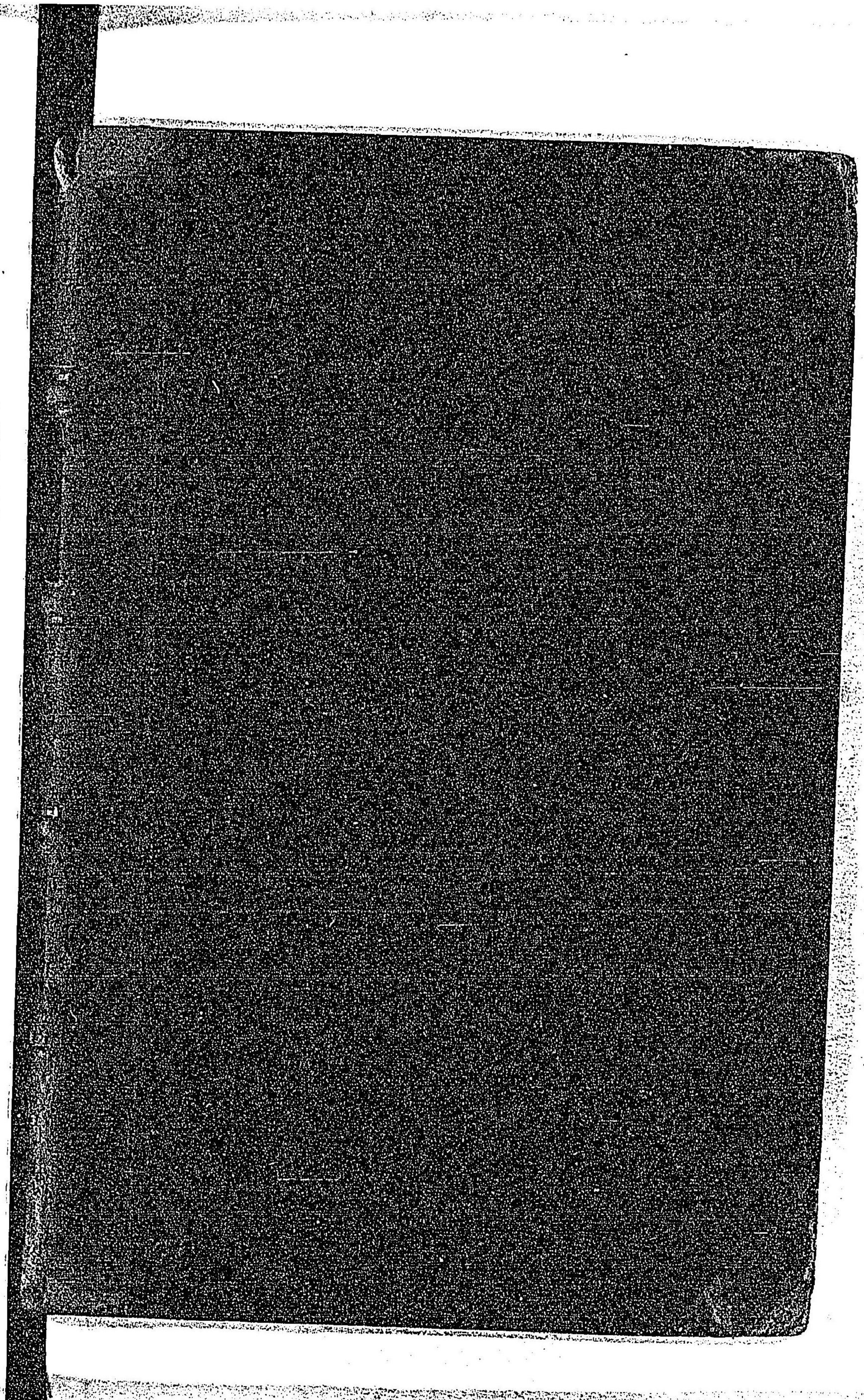




30519, D. 20

馬

及文改





031449-000-4

C211-05

欧洲各国宪法

元老院/編

M10

BBE-0047



藏板

